

# 幼 兒 の 教 育

第 七 號 七 月 第 三 十 七 卷



東京女子高等師範學校  
白木幼稚園協會

東京高等師範學校教授 文學博士 小野島右左雄著 菊判洋裝紙數二百八十頁 定價金二圓五十錢・送料廿二錢

# 新刊 現代性格心理學

## 日本精神 研究の 科學理論 漸く成る

本書は人生を語り、生活を論じ、人間を見る心理學であつて個人の性格を説く、のみならず國民性格の問題とする。現代科學理論の變革の理論を示しながら時に、東西洋の思想を検討し日本精神國民精神等の研究の科學理論を提唱する。

著者我國心理學界に於ける儼然たる大家、性格理論にかけては早く體制理論に、立ちながら獨自の境地を開いてゐる。世の教學に當るものはこれに依つてその教化の道を教へられ家庭にあつては父兄はこれに依つて其の子弟の教育に誤なきを得るであらう。そして日本精神研究はその強固な科學的地盤をもつに至つてあらう。

今其の大綱を示せば、(一)現代心理學と力動論 (二)體制理論 (三)力動論と性格 (四)性格類型法則 (五)性格研究法 (六)一般トポロギイ (七)心理學的トポロギイ (八)性格の生成 (九)心理學的診斷の諸問題 (十)性格と教育方法誘導の理論 (十一)日本人とその國民性格 (十二)結論 (十三)性格心理學的諸問題とその任務、科學と云ふこと、國民性格の陶冶と外來思想批判

一般教育家指導家、研究者は勿論問題と人々の一讀を望む。

文學博士 小野島右左雄著

# 最近心理學概説

菊紙定洋裝紙料 判數價 洋數圓五十三 全頁百八十三 册餘錢三

### 文檢 必讀 要書

拾數年高等學校、高等師範學校、專門學校、大學等に心理學を講じ、所詮、何等かの體系化的考察を強要せられる者がある。その意味は、過去を清算し、將來に延び様とする著者の自序の念願が、この體に依つて満されやうとする者がある。その意味は、過去を清算し、將來に延び様とする著者の自序の念願が、この體に依つて満されやうとする者がある。

讀者の生涯の大半を過したる者、最も苦悶を覺せしむるもの、新問題に於て、一般心理學の愛好者は勿論、高記述林士等が、讀者の生涯の大半を過したる者、最も苦悶を覺せしむるもの、新問題に於て、一般心理學の愛好者は勿論、高記述林士等が、讀者の生涯の大半を過したる者、最も苦悶を覺せしむるもの、新問題に於て、一般心理學の愛好者は勿論、高記述林士等が、

# 本會夏期講習會

本年も文部省主催保育講習が東京女子高等師範學校に於て開催せられる事になりましたので、その後、に於て左記講習を催します。

期 日 自七月二十四日 至二十七日(四日間)午後一時より四時まで  
場 所 東京女子高等師範學校  
講 師

幼稚園に適切なる新遊戯(實習)(十二時間)

東京女子高等師範學校助教授 戸倉ハル君

會 費 金貳圓五拾錢 (會費拂込後は御參否に不拘返戻いたしません)

宿 泊 本校寄宿舎(當構内)で女子に限り宿泊の御便宜を計ります。(文部省主催講習會員及び日本幼稚園協會講習會員共)

費用一泊金壹圓貳拾錢(二食つき)宿泊料は御入舎の上でお支拂ひ下さい。  
宿泊御希望の方は、本會講習會へお申込み下さい。(なほ敷布は各自御持参を便致します)

申 込 聴講、宿泊いづれも七月十五日までに本會講習係宛(東京市小石川區大塚町

東京女子高等師範學校内日本幼稚園協會)に講習料を添へお申込み下さい。  
御住所(受信所、奉職所名)必ず御明記置き願ひます。講習料のお拂込みは  
振替(東京一七二六六 日本幼稚園協會)を御利用下さい。

講習料の受領證にかへ、會員證及び汽車汽船割引券を御送附します。

鐵道割引特典 汽車賃五割引 (省線、社線共) ◎五割引は昭和十二年六月一日の規則改正に依り五

汽船賃三割引 (大阪商船 大連 基隆航路及近海郵船基隆航路)

割引期間 切符購入は七月六日より八月六日迄

適用期間 乗車券發賣の日より八月二十日迄

遊戯實習の服装は、洋服或は袴着用、靴穿きを嚴守して下さい。

昭和十二年七月

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

◎入會お申込みの節會員證と鐵道割引券とをお送りいたします。縣、市、町番地と御姓名とを振替口座又は爲替に詳細に明瞭に御記入置き下さい。

文部省  
主 催 **保 育 講 習**

(七月五日官報拔萃)

會 場 東京女子高等師範學校

期 間 自七月二十一日至七月二十七日(七日間)

講習員定員 三百名

講習員資格 幼稚園保姆及幼稚園教育關係者

科目及講師

一 幼稚園保育ノ本質ト諸問題(十二時間) 東京女子高等師範學校教授

一 幼兒精神發達檢査ノ方法(六時間) 東京帝國大學助教

一 健康教育トシテノ幼稚園(四時間) 東京市保健局特別衛生地區保健館學校衛生部長

一 幼稚園手技ノ實際(九時間) 東京女子高等師範學校保姆

一 幼稚園保育過程ノ實際(四時間) 同 倉橋惣三  
淡路圓治郎  
野津謙  
及川ふみ  
新庄よしこ

注意

一 講習員ハ一人ニ付約金七十錢ヲ要ス

一 講習員ハ上履クレヨン、缺、糊、鉛筆、物指ヲ持參スベシ

一 講習員ニシテ該校寄宿舎ニ寄宿ヲ希望スル者ハ七月十五日迄ニ該校寄宿舎宛ニ申出ヅベシ(食事費食ヲ缺ク)舍費ヲ併セ一日ニ付金壹圓貳拾錢ノ割ヲ以テ前納ノコト、尙敷布ハ各自持參ノコト、

取扱上ノ注意

一、中等學校教員講習ハ該科擔任教員ニシテ道府縣ノ該科目教育ノ指導ニ任シ得ベキ教員中ヨリ地方長官之ヲ選定スベシ

二、盲、聾啞學校教員、小學校教員及幼稚園保姆等ノ講習ハ從前通管內相當學校教員中ヨリ地方長官之ヲ選定ス

三、地方長官ハ講習員ヲ選定シタルトキハ講習ヲ受クベキ學科目及其ノ職氏名ヲ記載シタル選定書ヲ七月十五日迄ニ到著ノ日取ヲ以テ夫々ノ會場(校長宛)並ニ文部省宛提出スベシ

四、講習員ハ午前八時迄ニ會場ニ出席簿ニ捺印スベシ

五、前項選定ニ對シ何等ノ通知ナキトキハ受講ヲ許可セラレタルモノトス

六、講習修了者ニハ其ノ出席日數等ヲ査案シ修了證書ヲ授與ス

十、講習ニ要スル印刷費其ノ他雜費ハ當該科目講習員ノ負擔トシ開會前ニ之ヲ納ムルコト

# 第九回保育夏期講習會

主催 佛教保育協會

後援 佛教各宗々務所  
東京市大塚方面館

## 要綱

昭和十二年七月廿七日より三十一日まで (毎日午前八時より午後四時まで)

會場 東京市小石川區大塚辻町 東京市大塚方面館(舊稱大塚市民館)

◇市電、市バス—大塚辻町下車(約一丁)  
◇省線—大塚驛下車(約四丁)

## 一、講師及科目

一、保育法の新教材 (四時間) 東洋大學教授 關 寛 之氏  
本會保姆養成所教頭として宗教的信念に立脚した保姆養成に努められつゝある先生が我が國保育界に於て學ぶべき點の多い世界各國の最新保育法に就て御講義されることになつてゐます

二、迷信と正信 (二時間) 中野高等女學校校長 富 田 數 純氏  
迷信と正信とは教育者としては最も心得て置かねばならぬことでありまして特に幼兒保育に携はるゝ人々に取つては更に重要なこととてあります 女子教育に御熱心な先生は此の點に付懇切に御説示下さることゝ存じます

三、幼兒の救急法と繃帶法 (四時間) 醫學博士 竹 内 茂 代 女史  
平素幼兒を取扱つてゐる上に於て應急手當は最も重要なことであります 我が國女醫界の權威者竹内茂代先生を煩はして御講義をして頂くことになつてゐます

四、發聲法 實習 (五時間) 日本大學藝術科講師 ダン 道 子 女史  
ラチオでおなじみの先生が特に出席下さいまして幼兒の唱歌指導法、發聲法に就て御教示下さることになつております

五、遊戯指導 (十三時間)

(一) 幼兒遊戯(一般) (七時間) 島田舞師研究所長 島 田 豐 氏

會て本會夏期講習會に御出席を願ひ全國的に有名な先生に又お願ひして最新振付されました幼児遊戯につきまして御指導を頂くことになりつております

(二) 幼児遊戯(基本練習及讚佛歌)(六時間)

タンタバツハ舞踊研究所長  
本會保姆養成所講師

賀 來 琢 磨 氏

本會保姆養成所遊戯講師として幼児遊戯に専心せられつゝある先生にお願ひして島田先生と重複しない様に基本練習及讚佛歌を主題とした遊戯と又時間の都合で一般遊戯を御教示願ふことによりまして

一、 幼兒に適する新手法(五時間) 本會保姆養成所講師 卜部 たみ 女史

生活主義保育に於ける手技の意義使命を充分に發揮し眞の幼兒生活の中に生きた手技的題材につき先生が工夫創作されたものにつき發表されます

二、 講習員金參圓也

參 百 名

三、 申込所 東京市中野區宮前町感應幼稚園内 佛教保育協會夏期講習會事務所

四、 申込期日 七月二十五日迄(但し定員超過の場合には期間前に切することがあるかも知れません)

五、 宿泊 一泊二食付金壹圓貳拾錢にて會場附近の音羽洋裁女學院寄宿舎をお世話いたします

六、 鐵道割引 宿泊希望の方は申込書に御記入の上、講習前日に音羽幼稚園(護國寺境内)に御到着下さい  
本講習に参加せられる方に限り全国各地より鐵道運賃往復割引券を差上げます(但し片道五十軒以上は有効)

八月一日東京市内社會事業施設保育施設の見學を致します  
講習修了者には修了證書を授與いたします

見 學

講習修了者には修了證書を授與いたします

證 書

時 間 割

日	八時—九時	九時—十時	十時—十一時	十一時—十二時	一時—二時	二時—三時	三時—四時
廿七日	開會式	關 講 師	關 講 師	關 講 師	關 講 師	關 講 師	關 講 師
廿八日	富田 講 師	富田 講 師	島田 講 師	島田 講 師	島田 講 師	竹内 講 師	竹内 講 師
廿九日	富田 講 師	富田 講 師	島田 講 師	島田 講 師	島田 講 師	竹内 講 師	竹内 講 師
三十日	卜部 講 師	卜部 講 師	賀來 講 師	賀來 講 師	賀來 講 師	賀來 講 師	賀來 講 師
三十一日	卜部 講 師	卜部 講 師	賀來 講 師	賀來 講 師	賀來 講 師	賀來 講 師	閉會式

# 第八回夏季保育講習會

我が講習も既に八回を數ふるに至りました。何時も盛況を見る事保育界の爲め又主催者として大いに力強く且感謝する所であります。今年の第八回講習も亦時勢に鑑みて其趣く所を考へ少ししても我が保育界に一新企畫を作り國家の爲め幼児の爲めに盡したい存念で御座います事を御了承下さい。

一、期日 七月廿七日より七月卅一日迄五日間  
二、時間 午前八時半より十一時半 午後〇時半より五時

## 三、科目と講師

### 1. 幼児生活を基礎とする保育案と其運用 (六時間)

東京女子高等師範學校教授  
東京昭和保姆養成所顧問講師

倉橋惣三先生

幼児生活の充實が最も保育の重要とする所、幼児を此の境地に誘致すべき保育案が最も必要であり且至難でもあり、又誤り易く却て其の本義を離るゝ事なきを保し難し。茲に其本幹を闡明し綜合プランの運用について保姆が直ちに取つて役立たしめらるゝ様に極めて平易に教示さる。

### 2. 日本女性特に保姆として如何に修養し如何に幼児の性格を陶冶すべきか (六時間)

文理科大學教授 文學博士

務台理作先生

1. 日本民族 2. 日本文化 3. 日本精神 4. 日本女性 5. 保育事業に於ける日本女性の使命  
先生は哲學科出身の逸材で現今精神文化に對する權威者であります。其學識の蘊蓄の高く且深い事之れを説かるゝや極めて平易にして何人にも肯かしむる點は、彼の檜崎博士が口を極めて推奨せらるゝによつても、此問題を聽かるゝ皆様に必ずや何か獲得せらるゝ事あるを信じます。

### 3. 幼児期の體位増進を如何にすべきか (三時間)

聖路加國際病院小兒科部長 醫學博士  
東京市託兒所囑託

齋藤潔先生

現今我が國民の體位が次第に低下し行く事は國家に取りて眞に憂慮すべき一大事であります。今日人生の基調として大切な根柢をなす幼児期に其増進を計らずして他に之を求むるは愚の至り云はざるを得ません。茲に於て小兒科に醫學的研究が深く常に明石町市民館託兒所の幼児と接觸を保つていたゞ先生、しかも愛育會理事として幼児の爲め盡さるゝ先生を請ふて、幼児の體力増進の積極的方面について伺はせていたゞく事に致しました。又身體検査の結果を唯統計表を作るに止めず之を如何に利用すべきかを説いていたゞきます。

### 4. 幼児期の榮養について (三時間)

内務省榮養研究所技師  
東京女子高等師範學校講師

藤本薫喜先生

體力増進の重要な一方面として、榮養に關する新らしき且適切なる知識を得て、幼児及び家庭の母を導いて幼児の發達を促して、他日成人して後に最も必要なる體位の基礎を幼児期に於て用意すべき必要より、茲に先生を煩しました。

### 5. 手技 (六時間)

東京昭和保姆養成所講師

東山新吉先生

6. 遊戯

先生は東京美術學校出身にして、既に五回帝展並に文展入選の榮を得られた青年畫家であります。往年有名なる岡本歸一先生に指導を受け又獨逸に二ケ年留學して、こゝも繪の研究をせられた人であります。今回先生獨創の特技を提供して新鮮味を加へ、これをお土産とする計畫で目下製作考案に心を傾けて居られます。

東京昭和保姆養成所長 土川五郎先生  
瑞穂幼稚園長

體育を主とし藝術を副とし此兩者が恰も車の兩輪の如くしてしかも幼兒の生理並に心理に合致したる眞の遊び、楽しい遊びをして此點に先生の力を傾注して創作せられた新らしきもの。しかも其曲ミ歌ミ共に上品にして新しきものを選び二十餘種を發表し之れを練習せられます。

昨年先生が革正の叫びを揚げられてより、各地に之れが共鳴さるゝ方の極めて多くなつた事は、保育のため喜びに堪えません。今回提供せらるゝ遊戯によつて益々正道に歩みを進め行く事を信する次第であります。

六五四

定員 各二百名  
甲之部は 1、2、3、4  
乙之部は 3、5、6

割引乗車券 五割引往復券

○會費を添へてお申込の方へお送りいたします。七月二十日迄にお申込になりません間に合ひません。  
○切符購入期間は七月十五日より七月三十一日迄。通用期間は八月十四日迄。  
○五割引乗車券は鐵道規程改正の爲め五十キロ以上の方に限り通用致します。五十キロ以内の方には御氣の毒ですが使用できません。

三九八七

會場 會費 注意

瑞穂幼稚園 東京市品川區大井原町五二〇八 省線大井原驛下車城南バスにて原又は水神前下車。  
甲之部 參圓 乙之部 參圓 兼修 五圓  
本校寄宿舎を充用 一泊二食壹圓貳拾錢 收容人員に限りあり、必ず前以てお申込下さい。  
一、系統的保育案を御所持の方は御持ち下さい。  
二、手技の方はクレオン、ハサミを用意のこご。  
三、一度納付せられた會費は理由によらず御返しいたしません。  
四、宿泊さるゝ方は敷布だけお忘れなくお持ち下さい。  
五、振替は一週間後にこちらに到着しますから、お急ぎの方は爲替の方が宜しうございます。  
振替は東京六九二二四 土川五郎です。

主催 東京昭和保姆養成所

責任者 土川五郎

昭和十二年六月

東京市品川區大井原町五二〇八番  
電話大森四二一一〇番  
振替東京六九二二四番



# 第八回 全國保姆夏期講習會

本會開催の夏期講習會は昭和五年孤々の聲を擧げ、回を重ねるこゝ八回になりました。その受講員は全國各地より、殊に遠きは臺灣、ハルビンより參加されます。是、全く皆様の絶大の御援助と感謝に堪えない次第であります。今回は保育の革新に烽火を擧げ、幼児の體位の研究、幼児の健康問題、虚弱幼児の原因とその對策を示し、新しい圖畫と手技の新原理を究明し、創作遊技と教育舞踊を革新し、併せて幼児の薙刀の新研究法を企途する新講習であります。何卒御誘合せ、多數御來會を切望します。

一、期日 八月一日ヨリ四日迄(四日間)自午前八時至五時

一、會場 大阪商科女學校(大阪市此花區福島、市電福島西通交叉點南)

一、科目と講師

◆午前の部

## 1、幼児保育の革新

遅滞せる保育の革新を叫びんこし、敢へて造詣深き小川教授を煩すこゝせり。先生の講話は必ずや、幼児に接せらるゝ各位には金玉の聲ならん。(四時間)

## 2、幼児と體位向上の重要な諸問題

深山博士は斯道研究の爲め、數度、歐米に外遊せし新人であります。近來喧しくなつた、壯丁の體位、低下に就いて、その根本的改善法にも云はる、幼児の體位向上策に關し、體育上、榮養上、衛生上等から重要問題を述べられます、實にこの新研究は保姆各位に御満足と與へらるゝことを信じます。(三時間)

## 3、虚弱幼児増加の原因とその矯正法

社會の重大問題たる虚弱幼児の増加については、其の原因及對策を屢々論じつゝあるも、その原因さへも容易ならず、遺憾の狀態であります。この方面に深き研究と實驗とを有する權威者、松村博士についてこの重大問題を簡明せんこします。實に保姆各位のオアシスでありませう。(三時間半)

## 4、幼稚園の手技と圖畫について

幼稚園の手技と圖畫との純理論家としては横井教授の右に出づる方は殆んぞない云ふも過言ではないでせう。こゝに各位はこの貴い新しい講演によつて手技と圖畫に對する考へ方を的確にしたいと思ひます。(三時間半)

奈良女子高等師範教授 横井曹一先生

奈良女子高等師範教授 小川正行先生

元、京都帝國大學講師醫學博士 深山 杲先生

社團榮養研究所講師 松村義雄先生

法人國民保健研究所講師

◆遊技武道の部

5、幼稚園の遊技會運動會に適切なる體育ダンスと唱歌遊技(新作十五種)

久保先生は體育ダンス舞踊を研究すること十數年、著書六十有種、かつて歐米各國に外遊せし、我國幼兒ダンス建設の第一人者であります。

6、幼兒の薙刀法の新研究

文部省薙刀新要目により幼兒の薙刀法の研究の指針を與へられます。

大日本武徳會教士  
大阪市鷺洲第一小學校長

園部 繁 八 先生

7、文部省體操新要目中の幼兒に適切なる行進遊戯と唱歌遊戯

東京音樂體操學校教授

伊澤 エイ 先生

8、幼稚園に適切なる教育舞踊と唱歌遊戯(新作十五種)

大日本新遊技研究會講師  
寶塚舞踊研究會教官

松原 幾代 先生

9、幼兒のダンスと教育舞踊(新作十種)

午前の部金參圓。遊技武道の部。兼修金五圓。

親和實踐女學校教官  
久保舞踊研究所講師

井本 鈴子 先生

一、講習科

二食附金一圓參拾錢にて男子は大阪、此花區上福島北三丁目壹壹參番地、二見館。女子は二食附金一圓五十錢にて大阪北區會根崎新地三丁目出入橋東詰、美鳥館にて親切に御世話します。直接御申込下さい。

一、定員

各百五十名

一、申込

七月二十八日迄、必ず會費を添へ、午前の部が、遊技武道部か又は兼修かを明にして振替口座大阪七壹壹四六番か、書留で本會宛に(但し定員超過の場合は期日前にメ切るこゝがあるかも知れません)

一、資格

制限なし

大阪北區南森町森町ビル、市電南森町交叉點

主催

大日本新遊技研究會

電話堀川四六七九番  
振替大阪七一四六番

文學博士 淡路圓治郎

文學士 牛島義友 三先生共著

文學士 吉田虎彦

日本幼稚園協會編纂

# 幼兒發達検査

## 幼兒發達検査用具

### 内容

握力計・棒さし・菱形用紙・折紙・色紙貼り・粘土手本・畫用紙・比較板・積木・  
色形記憶・色球並べ・組立盤・繪合せ・觀察繪・記入用紙・ストップアウォッチ

◇但し「ストップアウォッチ」は別に金二十圓也申受けます

淡路博士は心理學の權威にして、嚮に兒童心理學究の立場より幼兒保育上必須の好著「幼兒性行評定尺度」あり、茲にまた牛島、吉田兩博士と相共に研究に没頭すること多年にして、その成果を輯録して以て此の著を成し、併て本用具を創案して之を慎重に幾多幼稚園に實驗して絶大なる効果を認め、「幼兒發達検査」の著と共に保育に關係ある各位に便せんとしてゐる。蓋し具に之を實施してその確的なる査定をなさば、保育上に益すること絶大なるものあるは實際に徴して言を俟たぬ所である。

四六版總布厚表紙本綴  
定價 樽瀟酒ケース入美本  
送料 金 八 錢圓

一揃 定價金參拾圓

發行所並用具發賣元

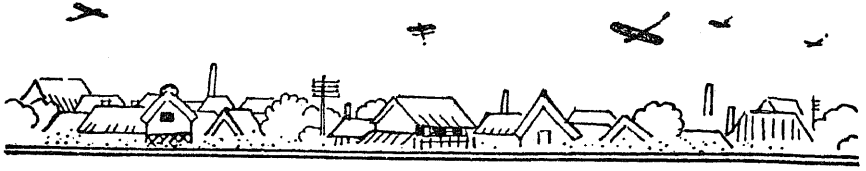
# 株式會社 三友社

出張所

本店

大阪東區備後町五・電話本町二一八九番

東京神田保二町・電話九段三三二七番



幼 児 の 教 育 第 七 號 第 三 十 七 卷

—(次 目)—

口 繪	倉橋惣三(一)
卷頭—保姆諸君と語る(七)	山下俊郎(四)
子供と環境(一)	多田鐵雄(三)
幼児と繪本	石井庄司(三)
子供黨列傳(二)	武田雪夫(五)
童露子さんと晴夫ちゃんのお話	水谷年恵子(四)
路地の子供	小向喜美女史の勇退
幼稚園を覗く(二)	父への思慕
或る日の反省	馬のお話
竹村 一(翌)	宇賀壽子(四)
菊池ふじの(空)	白根孝之(七)

松石治子著

〔新人の劃期的幼稚園教育研究〕

最新刊

# 指導案綜合保育

菊一判美裝  
二五七頁  
定價  
金貳圓參拾錢  
送料金十四錢

特色

本書は觀察・談話・唱歌・遊戲・手技生活事項を有機的に綜合せり。題目は四季に區別し凸版實例により系統的具體的に説明せり。本案によりて實際指導が直ちに出来る然も新メリードなり。

幼稚園託兒所の實際教育として極めて嶄新なものである。學習材料は幼兒の生活單位にも系統的に具體的に具體的に立案されて來てゐる。然して題材は觀察談話唱歌遊戲手技等を綜合して來てゐる。幼園教育上劃期的なものである。加ふるに本書は實例凸版等をもつて平易に説明し、本書があれば幼兒教育の運用に苦しむことがない。本書の教育的價値は我國に於ける幼稚園のカリキュラムの研究として獨自的地位を持つてゐる。見逃してならぬものである。

朝原梅一著

# 著名 幼稚園 託兒所 保育の實際

四六判洋裝  
三二〇頁  
定價  
金壹圓參拾錢  
送料金十二錢

幼稚園託兒所は大きな社會問題である。本書は幼兒教育の内外に於ける史的考察、保育事業の經營法、建物、設備、管理、職員、農繁期託兒所及保育施設數の附帶事業、保育事業關係法規及準用法規等に至るまで、明快に敘述せるものにして、本書一冊あれば幼兒教育の概要を知る事が出来る。特に本書の主要なる點は、第三編保育の實際である。こゝには著者の深い幼兒教育の思想が見られる。されば本書は幼稚園等を新に初める者にまつても、又現に従事してゐる者にまつても良書である。小學校の施設にも貴重な書である。

發行所 合資會社 三友社 東京 市口 四座 谷東 區京 新宿 一七 八〇番



大川の流る

# 育 教 の 兒 幼

月 七 年 二 十 和 昭

## 廣 い 關 心

—— 保 姆 諸 君 と 語 る —— (七)

倉 橋 惣 三

保姆さん方の手は、ひきくの子ぎもを抱く。その心はその子へ聚注して、ほかのこを思ふ間もない。この貴い狭さこそが、教育實際家のけ高い姿である。彼女はその子のいゝ先生であつて、教育をしてゐるさいふこさへ忘れてゐるかも知れない。その意味で、保姆にはひきくの子ぎもあるのみで、教育界なんていふものはないともいへる。しかし、それは、其子を前にしての保姆の心である。その聚注、その忠實少しも矛盾することなく、その手堅さを少しも稀薄にすることなく、やつぱり氣にかゝるのは、此の事業の一般問題である。自分が、その一端に立ち一部を引受けてゐるところの、保育事業そのものゝこみである。廣い關心だけあつて、手を空うして、子ぎもを置き忘れたりしてゐるのは、以ての外である。保姆は保育行政者ではない。保育評論家ではない。保育政策者でもない。しかしまた、餘りに狭い立て籠りに、廣い關心の全く無いのも、たのもしからぬ至りである。

關心をもつたまで、さて何が廣く働けるものでもなしさいふ人がある。ここによつたらそうなのかも知れない。しかも關心は必ず實行でなければならぬ。少くもこゝでは、そんなことを要求強要してゐるものではない。たゞ、無關心では物足りないのである。それは餘りに冷かさいふか、うすっぱいさいふか、水くさいさいふか、ここによつたら、一種の自己中心生活者で、人のこゝまはさうでもない、さいふ無訓練者なのか。兎に角に、一緒の仲間らしくない譯である。

實行には暇がいら、能力がいら、又立場もいる。誰れにでも一々効果ある實行が出来るさいふものではない。けれども心は心の強さをもつ。陰ながら心配してゐるだけでも、密かに念じてゐるだけでも、否々、だけでもなぞいつては勿體ない。そうした實のある心の強さ、それは、さこかで、さんなかの形で、實行的な力をもつものである。自らは大したものでない、知つてゐる小さい一つ一つの炭火が、火がついてゐる限り、集まれば互を温めあつてゐるように、それが室中に温まりを與へるように。火鉢の中の冷い黒い炭塊位、あたりを冷く、寒くするものはない。

○

世界教育會議が近づいた。デンバーにあつても、トロントにあつても、オックスフォードにあつて、それは私達の會議であつた。それが今年、來月は、もう數週の後には、日本で、東京で、本郷で開かれるのである。そのために、多數、千に近い多數の仲間が海を越えて集つて來て呉れるのである。これこそ實に、友あり遠方より來るである。

その人々は何のために來るか。富士山も、日光も、箱根も、否々現代日本の首都東京が、その大きな興味をなしてゐるこゝではあらう。しかも、それは、旅人としての興味である。會議、その人達が目ざして來る會議は世界の教育への關心である。——その中に幼稚園教育がある。何んぞ多くの仲間が、幼稚園教育の發達に對する關心を以つて、遙かくの國國からまでさへ集つて來て呉れるこゝか。但し、私は茲で、世界教育會議のための宣傳掛りをしてゐるのではない。それ



○  
も他のミころではするが、こゝでは、こんな大きな關心の實例ミして引きあひに出したのである。すなはち、世界全體に互つての關心さへ、われ／＼の仲間はもつこいふここの例である。國の問題ミして、府縣の問題ミして、市町村の問題ミして位の關心は、是非ミも皆が持たなければなるまい。——なかには、自分の組だけに立籠つて、自分の園の全體をさへ、全體ミして關心のもてない人もあつたりするのは、餘りに關心の狭いこミ／＼いへよう。

○  
關心の廣さは年齢に比例するこいふ人がある。そんなこもありそうでもある。しかし、幼稚園の先生は、みんなに若くたつて立派な大人(たいじんミ讀む)である。自分の身邊のこミにしか心の届かないやうな子こもではない筈である。若しそうだつたら、小兒病ミいはれても仕方あるまい。若いからこその心の興味も豊に、感激も強い譯で、天下のこミが氣にかゝつてならぬ筈である。年功の人々は、それだけ高いこミに居て、ものを見渡すこミになる。一層の廣い關心をもたずにはゐられなくなるのである。それを、萬一、年甲斐もなく引込み思案で、世のため、保育界全體のためこいふ氣が無いミしたら、それこそ不精者ミいはれても仕方がなく、年をミつて心が縮んだミいはれても、お怒りになれないであらう。そこで、關心の廣さは年齢でなく、保育事業そのものへの熱意如何である。いひつけられた仕事。職業のためだけのこミ／＼いふのだつたら、自分の受持ち以外はごうなつてもい／＼。苟も、此の事に當る以上、此の事全體に心を配り、全體のために懸念し、考慮もせずにはゐられないであらう。

ひかへめ／＼も、美德に似て、實は横着でありづる、であるこミさへないではない。遠慮々々も、謙遜に似て、實は。……そんなこミまでいはせないでもい／＼でせう。此の道のため、斯界のため。それでい／＼でせう。

# 子供と環境(一)

山下 俊 郎

## 一 環境はさうして重要視される様になつたか

いまこゝに眼の前に二人の子供が居る。この二人は、全く同じ事を言はれたとしても、言はれた事に對して全く同じ事を答へ、同じ動作をするものではない。この二人はそれ／＼違つた答へをし、違つた動作をするであらう。この違ふ事を言ひ、違ふ事をするのはさうしてか言ふに、それは二人の子供がそれ／＼に違ふ個性を持つてゐるからである。子供を全體として眺めたとき、何處か知らそれ／＼に違ふ所がある、これをわたくし達は個性と言ふのである。個性といふものは子供の生活の色々の場面にそれ／＼現はれて来る。子供が澤山集まれば集まる程個性の違ひといふものは、それだけはつきり現はれる。何か言ふにすぐ泣き出す泣き蟲の子供もあらう、すぐに喧嘩を始めてしまふ喧嘩早い子供もあらう。いつまでもぐ／＼してゐる子供もあり、ちつきもじつきしてゐないで、飛びまわる子供もある。みなそれ／＼の個性といふものなのである。一人々々の子供を見てもこれだけの違ひがあるが、例へば山の手の子供と下町の子供とを比べて見るに山の手の子供は山の手の子供としての特徴を持つて居り、下町の子供は下町の子供としての特徴を持つてゐる。また都會の子供は都會の子供なりに、田舎の子供は田舎の子供なりに、それ／＼の特徴といふものを持つてゐる。こゝういふ風に子供をそれ／＼一つの集團として眺めて見るに、またそれ／＼に集團的個性とも言ふべきものが現はれて来る。

こゝ考へて来るこ子供は一人々々を眺めて見ても、また集團的に眺めて見てもそれ／＼に個性こいふものが認められる。こころでこいふ子供の個性こ言ふものはこいふ條件によつて定つて来るかこ言ふこ、そこにわたくし達は子供の環境こいふものを考へなければならぬのである。

子供の個性こいふものを考へて行く上に、その環境が非常に大事であるこいふ事は、いまこゝに新しくりたてゝ言ふまでもなく、昔から随分古く言ひならはされてゐる事である。こいふ環境を重く見る見方は西洋では既に遠くギリシヤの昔にまで遡り得るこ言はれるし、またわざ／＼西洋の例まで持ち出さなくとも、東洋には既に孟子の母が子供の孟子にわるい影響を與へるこ言ふので三度も居を移したこいふ有名な「孟母三遷」の訓へこいふものがある。俗にも「氏より育ち」こ言ふ事がある。こいふ事は子供にこつて環境こいふものが極めて大事であるこいふ事をおのづから物語つてゐる事は言ふまでもない。

それではこいふしてわたくし達がこゝに環境こいふものを事新しく持ち出すかこ言ふこ、先づ教育こいふものが、個性の認識の上に根ざすやうになつたからである。個性の認識こいふ事は、環境の持つ意味こいふものを新しく認識し直させるのである。前に述べた様に環境の意味こいふ事に就いては以前から唱へられては居る。然しこいふ場合の環境は環境だけを考へる環境萬能論である。環境さへ考へれば何も考へるに當らないこいふ極端な考へ方である。然し、今日ではこの様な考へ方は非科學的な考へ方である。こいふしてかこ言ふこ個性こいふものは今日の科學によれば唯環境だけで以てきまるものではないからである。個性こいふものを定めて来る條件は、環境だけではない。それは素質にもまたよるものであり、素質をきめるものは遺傳である。わたくし達は環境萬能論を説くわけにはいかないのである。こころが一方遺傳の研究こいふ事は今日までに相當に深く廣く行はれてゐる。これに對して環境の研究こいふ事は近年になつて漸く興つて來た。新

しい科學的立場といふものに立つて、一方に遺傳といふ事を考へ乍ら、もう一つの要素として環境といふ事を考へなければならぬ。この様にして新しい科學的立場だも、昔は環境萬能論であつたものが、今度は一度遺傳といふ事を考へに入れて、謂はゞ分を知つた環境論といふものが樹てられなければならない。極く大まかに形式的に考へても、この様に子供の個性といふものを考へて來るに、新しく環境の問題といふ事が考へ直されなければならないのである。これに更に近世の教育の上にさういふわけで環境といふものが大事に考へられる様になつたかを考へて見るに、教育の變遷の歴史といふものがさうしても環境といふ事を考へさせないでは置かない状態になつて來たのである。この事を少しく詳しく考へて見やう。

近代教育の上に環境が非常に重く見られる様になつたといふ事情には、二通の事情が考へられる。その第一の事情といふのは社會的な事情でも言ふべきものである。それは近代以前の社會組織と教育組織といふものと、近代のこの二つのものを比較し、その間の變遷といふものを辿つて見るとおのづから肯ける事である。先づ社會組織といふ點から考へて見るならば、近世初期になつて以前は打つて變つた大きな變化が起つて來てゐる。即ち近世になつて産業が勃興し、殊に商工業が盛になつて來るに、さういつた産業上の營みを中心として人口が或る一ヶ所にかたまつて來るといふ現象が起つて來る。このやうにして方々に出來たものが近世になつて起つて來た都市である。この様に都市に人口が集中して來るに、現代の都會人には既に常識になつてゐる様にそこには誠に種々雑多な階級が一緒に混然と住む事になる。一方には富裕な上層階級があると同時に、また一方にはその日の暮しにも困る様な貧困階級がある。而もこういう様な貧困階級は勞働者として、一方から考へるに缺く事の出來ない存在であり、都市といふものが發生する以上必然的に生れて來なければ

ならないものなのである。こゝにいふ下層階級の存在は既にそれ自身だけでも一つの社會問題であるが、これは同時にそれ／＼の階級の子弟の問題である。こゝに教育上の問題が絡まつて来る。

近世以前の教育は社會の上層階級の所有物であつた。歐米でもさうであつたが、我が國に於てもまた、教育されてゐたのは上層階級の子弟だけであり、所謂庶民教育なるものが起つて來たのは極く新しい徳川時代になつてからである。そしてそれでもなほ教育はまだ／＼一種の有閑者のみの受け得る特權であり、また學ぶ意志のあるものゝみが、そしてまた學ぶ能力のあるものゝみが受け得る特權であつた。結局近世以前の教育は、一定の資産あり、一定の能力あり、一定の意志あるものゝみが受け得る特權であつたのは洋の東西を問はず同じである。そして教育がこの様に一部のものゝみが受け得る特權として認められてゐる限りは、教育の仕事は極めて簡單である。ちやんま定つた一定の形式を子供にあてがふ事で足りるのであり、この型にあてはまらない子供はその型の枠の外に投り出せばそれでいゝからである。

ところが近代の教育はさうは行かない。かういふ枠の外に出る子供の上にもまでも手を伸ばさなければならなくなつて來てゐる。その根本には凡そ子供いふものゝ觀方が變つて來たといふ事情も横たはつてゐやうし、また社會問題から起つて來た所の一般庶民階級の子供も亦教育さるべきであるといふ様な考へ方も底を流れてゐるであらう、が一番の直接の動因として働いてゐるものは形式的な要素ではあるが、義務教育制の施行といふ事である。近代の文明諸國が義務教育制を敷いたといふのはまださう古い事ではない。然し一旦義務教育制が敷かれたことになるさうも良心ある教育者は従前通りの定つた形式の枠を振り廻す事ではさうしても事足りなくなると言ふ迄もなく従前の教育は前にも述べた様な選ばれたもの達のみの受け得る特權であつたから、定つた型式を押しつける事で事足りた。然し義務教育制になるに、そこには、種々雑多な階級の子供を同じ様に取り扱はなければならない。殊に都會に於ては上層階級もあり、中流階級もあり、下層

階級もある。それ／＼の階級から出てゐる子供達はみなそれ／＼に異つた特徴を持つてゐる。そこに教育者の頭に問題として起つて来るのはそれ／＼の階級の子供達の特徴とその教育方法といふものでなければならぬ。そこで最も問題になるのは都會の子供達の特徴、貧困階級の子供達の特徴をつかむ事である。そしてそれ／＼の子供達の特徴をつかむ上にはさうしてもその子供達の育つて來、そして生活してゐる環境といふものが理解され、そこから先づ教育が出發するといふ事にならなければいけないのである。近代の教育の上に環境が重く見られる様になつた根柢には先づこの様な事情が横たはつてゐるのである。

これを要するに環境が重要視される様になつて來たといふ事情は、近代社會組織の複雑化と教育が一般大衆の上にくりひろげられる様になつたといふ事から必然的に起つて來たものなのである。これは強ち義務教育といふ事を考へなくても自然に教育の對象はひろがつて來つゝあるから當然の事であると言へる。幼児の保育に於ても、保育所の起りには社會的意義の重く見られる系統のものさうでない教育的な立場からのものさうの二つの流れがあるやうであるが、少なくとも我が國に於ては幼児保育所は幼稚園が最初の流れであり、のちになつて託兒所の系統のものが起つて來てゐる言つていいであらう。ミナゴで託兒所で行はれてゐる保育の方法は先づ大體幼稚園流の型がそのまゝ移されてゐるやうである。託兒所に來てゐる子供達は下層階級の子供達であり、幼稚園流の型式を持つて來て果してしつくり行くかさうかは問題である。事實託兒所で保育の任に當つてゐる保育者諸姉はこの點に大きな問題を持ち、幼児の環境といふ事について非常な關心を持つて來つゝある様に思はれる。これは、右に私さもが考へた様な、大きな教育の流れの中で重い意義を得て來た環境の問題が、いま新しく幼児保育の分野でも問題になつて來つゝある事を示すもので、誠に當然の成り行きであると思ふのである。

そして一度びこの様に子供の環境といふ事に眼を向けて來るさ、營に上層、下層兩階級の子供だけに限らず、田舎の

子供もある。また同じ都會なり田舎なりの子供でも色々な家庭から教育者の眼の前に現はれてくる子供達はそれ／＼にみなそれ／＼の特徴を持つてゐる。こういう風に眼をひろげて行く事によつて、子供の環境といふ問題は教育の上に益々その重大さを認められる様になつて來るのである。

さて教育の上に子供の環境が重く見られる様になつた第二の事情は異常児の問題である。そしてこの異常児の問題は教育の畠から起つて來たさいふよりも醫學の側から起つて居り、殊に精神病學者の提出した問題であつた。一口に異常児と言つてもそこに色々な子供が含まれてゐるのであるが、こゝに言ふ異常児は主に所謂「問題の子供」の事である。問題の子供ではその異常性は素質から來る事も多い。然し中には環境から來るものも決して少なくない。そしてさういふ異常児を教育して行く上にさう取扱はねばならぬかさいふ事は、よくいはれる言葉を使ふならば環境の統整といふ事に根ざすものであり、全く環境の問題であると言つていゝ。一人子の問題の如きは、教育的な識見を持つた醫者によつて、ドイツで始めて環境の問題として取り上げられたものであり、最も代表的な問題の子供の場合であり、環境の問題が取り扱はれた典型的なものである。不良少年は子供の「問題」さいふ點から見ると最も大きな「問題」である。この不良少年の問題はドイツでも研究されたが、アメリカでもまた大きな社會問題として環境の問題に迄發展して來てゐる。アメリカでは兒童の精神衛生運動が非常に盛であり、その爲に至米各地に兒童臨牀指導所、(我々の言ふ教育相談所である)が設けられる様になつてゐる。この運動の起る所は不良少年の問題である。それは不良少年の問題は眼の前に不良少年になつて現はれてからさわいだのでは既におそい。不良少年を色んな方面から研究して見るに、その不良性のよつて起る所はその少年のもつて年少のまきに在り、そこには、その子供の環境さいふものが非常に大事な役割をつきめてゐる。そこで幼少な子供

のうちにその子供の環境を整へてやり、正しい導き方をしてやる事がきりもなほさず、アメリカが大きな社會問題として手を焼いてゐる不良少年の豫防といふ事に役に立つのである。そこでアメリカではまた環境の研究といふ事が非常に盛である。そしてこの問題を先づ注目させてくれたのは所謂社會精神病學者の人達であつた。

この様にして異常兒の問題は、子供に於ける環境の重要な事をわたくし達に教へてくれた第二の事情なのである。

教育の上に子供の環境を考へるさいふ事が一つの大きな課題として展開されて來た事情の歴史的な道程を、わたくしたちは右の様なきころに見る事が出来るのであるが、この事はひつくるめて言ふならば一方では教育といふ仕事の範圍が段々擴げられ、廣まつて來てゐる事であり、またもう一方ではそれと同時に教育の仕事がたゞ一つの定り切つた型だけでなく色々の場合に應じ、色々の子供に應じて細かに精密になつて來てゐるさいふ事になるだらうと思はれる。そしてそのもう一つ底を流れてゐるものを探るならば、わたくし達は近代の教育が昔からの大人のあてがひ扶持式なものでなくなつて、ほんまに子供に即した教育になつて來た事がその流れであり、この流れは子供の觀方さいふものが變つて來たその變遷の上を流れてゐる力強い流れである事を見出すのである。

こう見て來るまゝ、わたくし達は環境が重く見られる様になつた事は結局は子供の見方さいふものゝ變遷といふ事に根ざしてゐるま言つてもいい。實際、子供を研究してゐる児童心理學に於ても近來著しい児童觀の變遷が現はれてゐる事は誰も知つてゐる通りである。以前の兒童觀は、一人の子供を一人だけ離して、その生活してゐる社會さいふ水の中から取り出して見て、丁度屍體を解剖する様に感覺の働きがきうなつてゐるまか、こゝにいふ物の考へ方をするまかさいふ事を形式的に取扱つてゐた。恰も一つの生物をきり出して切り離して見る見方なのであるからこゝにいふ觀方を生物學的兒童觀と呼



んでゐる。然しこの頃ではこの様な見方はしない。生物學的な兒童觀は子供の生活してゐる環境の中から子供だけをポツンと引き出して來て見る見方であるが、新しい兒童觀は子供をその生活してゐる社會の中で、その環境の中で環境と共に見やうとする。新しい兒童心理學はいつでも子供をその環境の中に於て理解しやうとするのである。こゝに子供の社會的な見方があり、所謂社會心理學的な見方が非常に大事なものでして前景に出て來るのである。そしてこの様な見方からするに子供を考へる場合に環境が考への中に入つて來ない方が無理であつて、必然的に環境といふものが考へられなければならなくなつて來るのである。

大體右に述べた様な事情からして、教育の仕事が少なくも生きた個性を持つた一人々々の子供を相手とする仕事である以上、子供の環境といふものが考へられなければならなくなつて來てゐるのである。現在わたくし達の生活してゐるこの日本に於いても教育者の間では子供の環境といふ事に對して著しい關心が起つて來つゝあるのを見るのである。これはさうしてもさうならなければならぬ必然性を持つてゐるものなのであるから、もしも環境といふ事を考へない教育者があるならばそれは教育的良心を持たない教育者であると言はねばなるまい。幼兒の保育に於いてもやはり同じである言つていゝであらうと思はれる。

こもあれ右の様な事情からして環境の研究といふ事が近來非常に盛になつて來てゐる。そしてその研究の進展の道程は教育的環境學といふ一つの體系にまで進まんこし、また現在進みつゝあるのである。教育的環境學は右の様にして子供の上に非常に大事な意味を持つ環境といふものを仔細に研究し、そしてその研究の結果を實際の教育的活動の上に教育の方法として役に立つ技術を提供しやうこいふ意氣込みを持つて現在發展しつゝある。わたくしはこの教育的環境學といふ立場から、特に幼兒の環境といふ點に中心を置いて、そこに見出される色んな實際的問題に就いて一つ宛順次に考へを廻らし、實際の研究の結果に基いて段々こ述べて行き度いこ思ふのである。(未完)

# 幼児と繪本

(ラーコー・ウィブラー)

多田鐵雄

(此頃の亂雜無方針な繪本の氾濫に憂感してゐた折柄、獨逸の雜誌「キンダーガルテン」所載の本文を讀みて意を同じうし、ここに抄譯した次第である。)

繪本は玩具と同様に幼児の世界のものである。幼児の世界は父と母とその家と密接に結び付いてゐる。この世界は全き活動の世界であり、潑刺たる攝取の世界であり、期待と満足の世界である。如何なる點から云ふもこの第一幼年期の「生れて初めてのころ」、「一回限りのころ」、「二度と再び得られぬころ」がその特徴である。我々成人でもなほこの世界を心の中に持つてゐる。一部は意識的に、一部は我々の魂の奥所に於て。そして我々が責任ある両親として我々の子供にこの世界を再び與へんことを欲する時、我々はこの世界の重大さを感じるのである。なんとなれば十歳の年頃までは我々両親が我々の子供に取つて凡ゆる事物の標準であり、その後に至つて初めて子供の精神は徐々に獨立して行き始め、他の教育者が我々両親と並び現はれて來るのである。

## 繪本市場に於ける無傾向性

これに關し責任ある必然的な標準と云ふものは未だ明確には存在してゐない。が少くも両親は子供に提供される精神的糧カキそのものより、より以上にその糧の正しい攝取につき配慮すべきであることは斷言し得る。でなければ結局は價値なき。

如何はしき、排斥すべき多くの商品に子供は取巻かれる状態に立至るであらう。あの白眼を剥き出した不快な人形、ゴム製の獸、ミッキーマウス、のらくろ兎等を想起すればそれは明瞭である。

繪本は廣く玩具と同じ分野で見出される。たゞ繪本はその淺薄な本質を金や銀の表紙の下に隠し、セロハン紙に包まれて魅力的に購賣者の手に入つて行く。その他繪本は購賣者の注目を索きつける術を知つてゐる。そこには本の中に穴を開けて下の頁の繪が見えるやうになつてゐるものもあり、頁から形體を引起して立てられるやうになつてゐるものもあり、種々な興味を唆つてゐる。又繪が手で容易く切抜けるやうになつてゐるものもある。いはゞその繪本の生命はたゞ切抜けたり、繪を起したり出来る點にだけあるやうな種類のものがある。然しながらかゝる外面的な魅力以外のものが繪本選擇の標準として存在してゐるねばならぬはずである。従つて我々が眞にその内容を検討するべき、驚かざるを得ないものがある。即ち我々が他の形式、他の場所では斷乎として拒否するに違ひないものが、そこには澤山存在してゐる。我々はこの隠れたる有害な傾向を注意深く觀察すべきである。宗教的觀念を世俗極まりない世界へ引込んでゐる繪本があり、勞働や手工業を軽々しい戲畫化してゐる繪本がある。そこには我々の非常時に觸れるやうな何物もなく、そこには繪本の中のその外面的な滑稽による下品さを何かの意味で救ふべき秩序立つた考へなぞ存してゐない。誰でもこの間の關係をはつきり見れば、かゝる繪や文句の中に、放逸にして、國民に縁遠い、且つだらしなない種類のものを認める。それは、生き生きした子供等のために心から骨折るよりはむしろ、道化役で安逸を貪る方を選び、それで以つて人生の重荷を逃れることが出来るを考へ、そして最後にはたゞ彼等の財布を満たすことばかりを考へてゐる。

彼等の行動が無責任なものとして認識され、ば直ちにかゝる道化的文化は消滅せしめられるであらうし、又今なほ相も變らず黒ん坊や鼠のミッキーや熊のテディや誘惑的な眼を長く引いた眉毛のハリウッド的假裝のベッティ等に子供の關

心を牽き引けてゐる處の八方美人的文化、及びまるで退屈した大人のやうに子供が振舞つてゐる味氣ない子供部屋も消滅するであらう。それと共に動物ミカ野原ミカ森林ミカに對する正しく且つ内面的な關係を有たず、日々ミ年々のリズムをたゞ時計ミ曆に於てのみ感じ、それ故にそれらの對象を生命のない事物に對するやうにして取扱ふ處の、中味のない誤まれる大人の文化は子供の繪本から姿を消すであらう。大人の文化は是等の對象をたゞ並べ立て勝手に粉飾し、道化させてゐる。それに對する例はのらくろ兎、ミッキーマウスその他に澤山ある。

繪本に挿入されてゐる文章を詳細に觀察する骨折をする者は、こゝでも多くが作爲されたもの、gemachtであることを斷定するであらう。事件の進行の簡單な表現の代りに韻を踏んだ句を以て内容を雜亂せしめ、それで以て内容の貧弱さを粧ひ隠し得たものと思つてゐる。繪の表現方法も内容の亂雜さミ比例して著しく亂雜になつてゐる。實際に表現の二様式が存する。一方は甚だ色彩的であり、一方は淡々たる様式であり、共に單純化が目指されてゐる。然も大概は繪は繪だけのもので、一目見ればそれで萬事が埒が明くミ云つた風な單純さである。そして我々はこの表現形式に慣れてしまつて、多くの人々は、時々は有名な人の名がそこに署名される故に、この點に唯一妥當な幼兒繪畫様式を見ねばならぬミ考へてさへゐる。かゝる著作者がどの程度まで正しいかは後述に於て明かにされる。その他に手輕に筆を走らせる一群の畫家がゐる。彼等はいつも共同作ミして繪を描いたり、時にはその表現ミテキストミの一致に氣を配る勢さへ取らぬ者もある。又奔放な水彩畫で輕い氣分は出すが子供に對する深い印象を不可能ならしめてゐるやうな畫家もある。

責任を以て満足なる繪本を探し求める購買者はかくて大抵は幻滅を感じ、自己の幼年時代の古い繪本や或ひは祖父時代のものを取出して來る。——二三のものは現在すでに版を新たにして再版されてゐる。又は澤山挿繪の入つた大人の眞面目な本を子供等に提供する。そして子供等がその本を讀み耽り、繰返し繰返し手に取り時々は最も好ましい愛讀者ミして

受取るのを、驚きの眼を見張つて認める。大人はかゝる方法が決して最上のもので有り得ないことを知つてゐる。然しかる方法が屢々大人に取つて繪本市場の無方針、無價値、空漠から逃れる唯一の道になる。この道はそれでも子供を我々國民を尊敬するやうに指導し、子供を待ち設けてゐる生活闘争に對して強化せしむることを一番確實に約束してゐる。勿論多くのものは不満足であり、危険なものも又間々存在する。従つて國民養成の大なる使命に參加せしむるためには如何なる方針で子供の繪本を發展せしめなければならぬか云ふことはよくよく思考されねばならぬ。

## 幼兒に對する誤解

### 幼兒の眞摯

我々が最近の數十年を概観するならば「子供の世紀」云ふ意味で凡ゆる方面から子供の活動・表現に對する計畫的な探求がなされてゐることを見る。子供はその住み慣れた正常の環境から推し出され、出来るだけ専門化されたる問題點から觀察され、又無理やりに問題化された。子供が定着 fixieren したことは凡ては仔細に集められ、記録され、目錄につけられ、出来るだけ直ちに個々の場合についての教育的斷定が結論された。遂には子供の生活を原子論的に考へる方法によつて子供に云ふ謎を益々解き難いものにした。両親に教育者は實際に在るがまゝの子供に云ふものを離れてしまつた。いはゞ彼等の本能的自然的觀察を棄て、しまつたやうである。「子供の世紀」は萬事萬端皆子供から出發せしめる處まで、子供に云ふものを神聖化してしまつた。しかも人々は實は子供をたゞ上つ面だけを見てのことで、決して子供の内面的な努力の奥所で理解したのではなかつた。

眞實に於ては幼児の行動表現の一見甚だ轉變常なき現象を、一つの深い眞摯さが貫通してゐる。この眞摯さは、幼児の本性天性に基く動作と同じく、生れながらに備はつてゐるものである。又この眞摯さは遂にはこの本性天性を發達させ外部の力に拮抗して活動させることを可能ならしめるものである。幼児が一つの事物に没頭する強さ、幼児が一つの事物を固持し又望むことをさうしても思ひ遂げる粘り強さ、は即ちこの眞摯さ云ふ内面的迫力の威力を證示するものである。幼児は何事をも重大に取扱ふ。大人の上つ面的なことは幼児には縁遠いことである。即ち幼児は彼等の存在に關聯する問題をフレッシュに感受する故である。現狀への理解の成長、現狀との對立、現狀への組織參加がそれである。

大きな眼で以て、善なるものに對する全幅の信頼を以て、眞なるものゝ發見に努力しつゝ、幼児は世界を觀察する。故に若し幼児がきたま驚くほぎ速く或る一つの事柄に對して何か或る見解なり意見なりを得たからきて、それは幼児がその事柄を理解してゐないのだまは必ずしも云へないのである。幼児は屢々多くの大人より、より良く「誰が子供を尊重してゐるか」「誰が善良で誰が悪意あるか」を云ふことを知る。大人に在りては部分的には鈍つてゐたり、もはや活動しなくなつてゐる意識を幼児は充分に働かせる故に、昔の云ひ慣はしの「子供の口は眞理を云ふ」を云ふことは事實多く正しい。

幼児の眞摯になつて現はれてゐる處の事物に對する内面的意識が、一見幼児の能力では及ばないやうに見える事物に對しても幼児を接近せしめてゐる。たゞひ幼児の行爲が大人の眼には屢々些細なことに映るにしても、然し幼児の用意周到さは確認され得るどころである。又仕事に對して一つの意志が働いてゐるを云ふ事實を大人が見逃すならば、幼児の憤激、幻滅を必ず認めるであらう。この意志の存在を云ふことは然し、決して看過すべからざることであるはずである。幼兒は彼の存在の凡ての纖維で以て自己以上のものへ成らうを意欲する。正に在るより以上のものへを努力する。幼兒の魂が希求する處のものは、當初は兄であり姉であり、次に學校の生徒であり、兵隊であり、決死隊である。幼兒は疾風的な

勢、突進的な歩調で、幼児の未だ明かにされない希求を最後に大人の世界へ行つて満たそうにする善良なる信念を以て、大人の世界を目掛けて努力する。我々は幼児に何の課題も與へないことによつて、又幼児が求めてゐる世界への洞察を言葉で繪きでむしるヴェールで蔽ふやうに隠し曇らすことによつて、又は幼児には何もなすことが残つてゐないやうに幼児のためにすつかりお膳立をしてしまふことによつて、大人が幼児を屢々繪本によつて幻滅を感じさせてゐることを知つてゐる。然し正に自己活動こそが幼児の能力を喚起し、幼児の努力に養分を與へるのである。

### 幼兒の陽氣性

繪本の大部分は馬鹿々々しい極みの放埒さが充満してゐる。両親がその子供に他の場合には禁止してゐることがこゝではシュヌキーだのムッキーだののらくろ鬼だのミッキーマウスの繪として色々の惡戯や不法を薦めるやうな不適當な内容になつて幼児の眼前に示される。學校も充分に物笑ひの種材につかはれてゐるに違ひないし、失業や生活難も笑ひの題材になつてゐる。人々はこんな無法なこゝで幼児を喜ばせ得るを信じてゐる。然も幼児がかゝる馬鹿げたこゝによつては、たゞ煽動されるばかりだと言ふこゝも、又幼児の信頼し幼児の善良な意見を生活の秩序から動搖させる分裂へ陥入れるこゝも氣遣はうしない。若し幼児が自分自身でかゝる無法なこゝをなすにしても、それは幼児の本性ではなく、つねにそれは過度の強制に對する反動であり、缺點ある指導に原因する退屈の爆發である。

反之我々は幼児の天性快活なる心情状態、即ち幼児の陽氣性を指摘しよう。この無頓著さ、陽氣な氣分に浸り切つてゐる状態は我々の乳幼児に在つても既に音聲や片言の反復に於て、喜ばし氣に手足を動かす様子に於て、又手近の品を手にとつて投げる點に於て、少し大きな幼児に在りては歌に於て、活動の反復に於て現はれてゐる。そして幼児の遊戯もこの氣分から生ずる。即ち女兒にありては毬突き、輪遊びが、男兒にありてはトテテタの兵隊遊びなき。兒童の陽氣性は

何物からも縛られない最も愉しい状態であり、何等目的を持たざる漫然たる反復的活動であり、それは幼児の心情の自己内面的な煩はされざる活動である。かゝる認識は我々をして童話、民話及びぐるぐる廻つて又元へ戻る循環歌へ、又繪本を仲介する遊戯形式へ注目せしめる。

### 幼児の心情

大概の繪本の繪や色彩に於ける香氣の無さ、動植物の描出の氣儘勝手さは、幼児が繊細な全體情調を持たず、自然本来の關係を理解する能力なきものとする如き外見を起させる。幼児は草花や動物に對し特に親密な態度を持つ、而も彼の心情状態が他の存在を共に包み蔽うてしまふ程インテンシブである。幼児の生活は可成長の間、圍繞する環境の世界を完全に不離一致してゐる。幼児は花に向つて「お休み」を云ひかけ、又犬がいつもは家族の一員に遇せられ、人々が云つて聞かせることを犬がいつもは了解するのに、人々はなぜ犬を食卓に列せさせて一緒に食事を取らないかを怪しみ驚く。花が人間の顔をしてゐないにも拘らず、又動物が普通は人間のやうには教育されないにも拘らずこの親密な態度が存立する。そして幼児は花が人間の顔を持たないのを變装してゐるものを感じ、動物のそうした取扱ひを冗談でそうしてゐるものを感じる。そしてこれは幼児に取つてはむしろびつたりしないことである。事物はかゝる作爲により戲畫化され上つ面化される。以前にそれ等に向けられてゐた愛と尊敬は不真面目さに變つてしまふ。自然に於いても又繪畫に於てもその情調は同じことがある。確かに一人として幼児はおそらくそれについて口に云ひ現はし得ないが、然し幼児は甚だ早期から、明るい喜ばしさ、暗い脅威、華美な光輝さ、神聖な崇高さから心打たれ、彼自身の全體情調はこれらの印象によりて變形して行く。幼児の心情は荒削りな感受性以上のものであり、より深き、上つ面ならざる事實の直覺的把握であり、外部へ作用する活動であるよりむしろ精神的な態度である。



## 幼児の繪畫理解

人々は繪畫の理解を幼児に容易ならしめるために、幼児の手で繪本を描かせ、それで幼児は満足してゐるに違ひないと思ふころまで行つた。然し飛んでもない。幼児はその繪を冷笑し、「こんなの自分だつて出来る」云ふ。そして幼児はそれ以上のものを熱望し、就中何か景仰し得るものを欲し、彼等には到達し得ぬ業績が表現の中に在ることを欲する。

幼児が如何にして繪を體驗するか云ふことが決定的に知られねばならぬ。我々の新らしいドイツの全體心理學は、幼兒をその凡ゆる表現に於て同時に觀察し、凡ての個々の事實を精神全體へ關係させ、幼兒を生活に關聯する位置へ据えべく努力することによつて、これに關しての根本的な解明を與へることが出來た。

幼兒の繪畫生活は、感情に尊敬によつて規定される處の精神的象徴である。中心的總體特質が興味に基調音を與へる。又その基調音は、たゞへば森の寂莫、童話的素敵さ、落付いた明瞭さ、氣儘な拙ない筆致等の情調、即ち内容的なものからも、又それ等の印象、即ち表現方法からも規定付けられる。この總體特質の中心的感情及び價值感に繪畫生命の長い經過に於ては、強く感情付けられたる特殊印象へますます分離されて行くが、然しこの特殊印象を最初の興味に基調音に一致させやうとする努力が絶えず働いて行く。

繪の中へ沈潜するに必要なものは、個々の形式を遊離せしめることによつて高められる處の明瞭性と概観性である。然し雜駁な形式化、單純化が生じてはならぬ。然らざれば無活潑な感情、空漠が生じて来る。自然に忠實なこゝろ、正確さ、極く小さな個々を顧慮することが、幼兒から要求されてゐる。幼兒は時の過程を含む詳細なる表現を尊重する。なんとなれば幼兒は繪畫を歴史と同じやうに受取る。幼兒は個々の事物を順々に讀み拾つて行き、その事物の中へ沈潜し、事物を味ひ盡し、その際繪畫の總體情調から支配される。その繪はその表現によつて既に第一印象に於て、童話として、或は無味

乾燥な世界の出來事の表現として、或は事物の即物的報告として、幼兒に話しかける。

表現の明瞭性、眞實性、豊富性は幼兒が繪に對して與へる價值標準を決定する。この點から藝術家に對して一つの使命が生ずる。即ち藝術家から最も眞剣な勞作を要求する。

幼兒生活様式へのこの洞察は、幼兒をその年齢の孤立から救ひ出して來て、幼兒と大人を結びつける處の人間本性、民族固有性を強調せしむる。かくて我々は幼兒の中に再び我々自體を發見認識する。幼兒の内面には、人間本性及び民族的結合によつて、我々固有の努力、我々の感情、價值感が内在し、作用してゐる。大人に對してこのことからして、義務が、即ち引受くべき指導の義務が、より深い洞察から、より大なる明白性から、又將來が必要とするドイツ人の決定的な様相はこの傾向の完成に於て形成されること云ふ、必然性の意識から起る。

我々がドイツを繪本のいかに作り上げるべきかについては、先づ昔の時代がその子供達に與へるに役立つと思惟したものをふりかへつて見るを可とする。

## 百年前の繪本の實例

繪本は直觀と知識を傳達す。

初期の兒童繪本(寓話集、手ほきき等)に於ては繪は極くわづかである。コメニウス(一六五八)の世界圖繪が繪本に對する決定的な轉換をなしたことは明かな事實である。この本の繪はその時代人は讀み習ひ、世界への初印象を獲た。世界圖繪は續く數百年に於て多くの重版及び改版をなしたが、子供に繪によりて直觀と知識を傳達する原則は、子供繪本の最盛期に於てもその妥當性を保つてゐた。

ほゞ一八〇〇年以來繪本の全盛期が起る。兒童の本は支配的な時代精神の表現になつた。合理主義、敬虔主義、新獨逸運動、ロマンテック運動は繪本に反映し、我々に尊敬を起さしめ又多くの見地から範例となり得る最頂點へミ繪本は達した。兒童は彼の眞劍に取扱はれたいこの本能的な努力の中で、感動を受け、又世界を學び知つた。A B C 讀本、繪のアルファベット、繪鏡、繪大學等に於て兒童は村や町の有様、生活を、又如何にして大人は日常その職場、職業に於て働いてゐるか、如何な風に見知らぬ人々、國民が存在してゐるか、又その子供はどんな遊びをしてゐるか等を習ひ知つた。

凡ては銅版で細かく慎重眞面目に刷られたか、或は石版刷で大概是彩色されて丹念に描かれた。それらの繪は凡て眞實性に充ち、個々のものゝ規範的形象を認識せしめ、然してこの方法で兒童を神の意圖せる生活秩序へミ引入れてゐる。人間活動の根本機能はこの繪によりて兒童に遺憾なく示された。

如何に百年前の人々が圓滑に且つ印象的に言葉ミ繪を形成するこゝを知つてゐたかは、F・キエデの一小冊子「裸麥の穀粒」に於ても示される。こゝに、最後の總括的テキストを引用すれば、「農夫は先づ耕す、充分に種播く、地畑はそれを蔽ふ、雨が降りそそぐ、雪が包む、太陽が温かく照る、風が揺り動かす、粒がその中に出来る、刈入人が刈取る、打穀者が軽くティブ・タップ打つ、驢馬がバカバカ運ぶ、水車がガタシガタン廻る、母が混ぜ合せる、パン屋は釜に入れる、パンが出来る、子供等がそれを喰べる、裸麥よ、その道のりは長いものだ。」ミ。

自然の偉大さミ威大に想倒せしむるやうな深い印象に對して子供らしい考へ方をさせるに適してゐたのは「自然、世界及び人間生活の描寫。自然の圍の最も注目すべきこゝ。その他」であつた。こゝにはリサボンの大地震、ベスピヤスの噴水、怒濤の中の難破船等が二度忘れられぬ筆力で繪の中に現はされてゐる。

繪本は意義深き樂しみを與へ、ユーモアを以て教訓す。

兒童を意義深き活動へミ刺戟し、退屈を起させず、又心から愉しく笑ひ得せしむることに意を注いだものに「樂しみミ學びの本」「子供のよろこび」「勤勉なる子供のための慰み」などがある。それらは凡ての愉快な行爲の中により深い眞理の種子が藏されてゐる。即ち冗談ミ眞劍ミが隣合つて存在してゐる。かくて最大の歡喜がより深い認識の象徴にまで高められた。

時代が一つの傾向をしばしあまりに切烈に強調してゐる場合もある。たゞへばこの時代には道德臭が多分に在つた。そのこゝは我々もよく知つてゐる。我々は然しこれを決して推稱するものではない。

繪本は生活の緊張の中へ引入れ、日常俗事を繪によつて純化する。

兒童の心情へ作用した點では昔の繪本は唯一のものであり他は遠く及ばない。知識の傳達に向けられた繪本に於てすらも、日常俗事の雰圍氣から繪本を高める處の對象に對する深い愛で關與して行つてゐるこゝが明かに感じられるこゝを我々は既に言及した。童話、物語、寓話、母の歌、愛撫の歌、當時の自然及び人間生活の表現ミ、グリム兄弟、ムゼウス、ブレンターノ、ヘーベル、フレーベル等の純粹ドイツ的國民性の先驅者報告者の名前が結びついてゐる。彼等は拮抗し難き強力さで、兒童を生活の緊張の中へ引入れ、又優しき佳調から感動的な悲劇までの感情のあらゆる段階を兒童をして體驗せしめてゐる。大なる能力ミ温かき心を持つた藝術家、例へばルードウィツヒリヒテル、テオドルホーゼマン、モーリツフォンシュウインド、オットーシュベクター、バウルフォーゲル、カールフレイリッヒ等も凡てその通りであつた。

彼等はその國民の思念を希望の中へ自ら身を入れて感じたし、又國民の眼を以てその故郷の姿の中に平和に充ちたるもの、惱みに充ちたるもの、強力なるものを感得した。彼等の藝術はその感受したものを平滑に詩的なものに形成し、事實を純化したのである。かくて繪自身が童話になつてゐる。自然を抑壓することなくして、かく自然を藝術へまで高めてゐる點にこそ、繪の強い魅力も、心情へ及ぼす深い作用が存在してゐる。

## 新 使 命

子供の本の全盛期の繪本を觀察して我々は、如何なる方法で一つの強い作用が幼児に影響して行つたかに就いて知るころ多かつた。大人が本能的に指導する方向に幼児の傾向がこゝでは一致してゐた。この一致は過去の繪本の複製が我々の時代への解決なりとする懸念を生じせしむる。この方法處置は個々の場合には正しくあり得やうとも、全體から見れば、それと共に幼児繪本は我々の時代の使命ではなくなるであらう。なんとなれば、例へば全盛時のやうに、繪本が時代の支配的精神の表現になつてゐる時に於てのみ繪本は國民の教育に於ける作用的要素を成り得るのである。今や時代精神はナチス世界觀を以て我々國民を新たに飛躍せしめてゐる。

この新世界觀が最良の獨逸性に如何に深く根付いてゐるかを我々は知る。それ故に過去のものを見て拒否することは勿論妥當せぬ。むしろ過去のものゝ内、價值あるものを、それを意義深く新らしき努力に役立たせるために選り出すべきである。それと並んで今日の生活の新らしき見解、生活の新様式が幼児繪本に於て、古代及び恐らくは未だ現代すらも充分なる鋭さでは認識せしめてゐない處の新らしき土臺の上に構成されるこゝが希望される。

## 古き要素の評價

國民の長所は再び呼び醒されねばならぬ。

我々が祖先について知る限りでは彼等の運命は彼等の心の持ち方、つねに結び付いてゐる。彼等は心の中で一つの内面的先天的法則に従つてゐた。この法則が彼等の長所を完成したのであるし、數千年を通じて現代までも引續き作用してゐるのである。「誰は如何なる心の持ち方をするか」云ふ點で我々は我々に屬する人を識別する。獨逸の英雄詩、獨逸の童話、獨逸の寓話は獨逸人の心の持ち方を適切に、はつきり、一義的な姿で示した。又その心の持ち方のタイプに對し獨逸人はさうであつてはならないかを示す反對的タイプも對立的に示された。獨逸の民族感情の尊重から出發せる善、惡との關係は千變萬化に變化して、再び兩親、兄弟、姉妹、總統と部下との關係の中へ反映してゐる。忠實、勇敢、犧牲的精神が勝利を得、狡猾、臆病、利己心は打ちのめされてゐる。惡の力は奸智と詐謀であり、冒瀆と束縛である。善は惻巧と賢明を識別し、從順と忍耐と約束履行を知る。勇敢は弱小なる者にも力を與へ得る。幸福は恒に善と共にある。

この長所が今日でも尙家族を結合させ、總統と部下を一致させる秩序を形成してゐる。この一致に對しては何等の批難も侮辱をも加へることは出來ぬ。我々は幼兒をこの獨逸人の長所の象徴へ誘導することによつて、幼兒の中に既に早期から彼等の最善にして最強の力を眼覺ます。

自然に對する及び自然が我々に與へてゐるものに

對する注目と畏敬が取戻さるべし。

我々國民の大部分が都市へ密集してゐる、昔と違つて狹隘な借家に居住する結果は人間を益々自然から隔絶した。

自然は以前には家庭生活の中へまで入込んでその生活リズムを健全たらしめた。純粹な偽りなき自然との接觸が益々まれになるにつれ、自然を心無き對象として感じ、心無き方法で自然と交渉する自然からの離反が生じた。殊に幼児は奇蹟に對して感じ易い心を持つ故に、つねに新たな創造的活動的自然に對する注目と畏敬を繪本で養成することは容易であらう。幼児が關係する多くのもの、又幼児が日常必要とするものは一つの長い道程を経て來たものであり、太陽と雨の下で成長したのであり、それが最後に幼児に奉仕すべく手許に來るまでは、長く育くまれ保護されて來たのである。我々は昔の兒童繪本の中に斯かる變遷の素朴にして飾らない描寫を發見する。過去の幼児に取つてはかゝる變遷は大體に於て自己の直觀からしても未だ容易に知り得るものでもあつた。我々の幼児に對しては都市と田園との判然たる隔絶によつて又大企業の結合によつて、大體は隠されてゐる。こゝで繪本は思考と心を開いてやらねばならぬ。そして有機物秩序の理解を幼児のために準備せねばならぬ。

も一つの點を我々は指摘したい。現代に於ては益々迫害に曝されてゐる處の野外に生活する動物は、我々が例へば鳥の孵化狀態又は季節々々への意義深き順應なきに於て發見する如き範例となる本能生活については僅かしか觀察されない。野生動物は森林の深みへ、沼澤深くへ、又道のない叢林へ引込んでしまつた。然し正にこの隠れてゐることによつて、意味なき殘虐破壊への刺戟を與へる結果になつてゐる。繪本は早くから幼児に動物の家庭的生活を眼前に示すべきであり、彼等の巢を造る熱心さを、又雛が獨り立ち出來るまでの親鳥の世話、冬のための彼等の準備を、又最後に危急時に於ける逸走避難を幼児に知らしむべきである。それは郷土に於ける動物を茶化してしまつて帽子やスリッパをはかせなくては幼児に殆んぞ考へ得られぬやうになつてゐる繪本は全く別のものである。

又大自然の微生物の生活すらが、我々の自己の生活の表象となるやうな驚異に満ちてゐる。蜂と蟻とは以前から人間に

勞働の根本であつた。「蟻の許へ行け、そして彼を學べ」。各々がその職場に於て全體の保全のために如何に奉仕するかを我々の幼兒に示せ。蜂の巢や蟻の家の中に秘められたる祕密の生活を幼兒に明かにせよ。それも自然科学的知識のためではなく、例へば裸麥の實例が凡ゆる素朴き自然まで示されてゐる如くに、在るがまゝの姿で示せ。

ナチス國民福祉は國民教育に於て自然の理解に對し模範的な道先驅した。大人に對し今日なほ示されねばならぬことは「我々の獨逸の森を守れ」であり、「母ミ子を離すな」であり、そのことは又我々の幼兒にも幼少から意識の中へ深く植付けられねばならぬ。

### 勞働・勞働しつゝある人・その仕事・に對する尊敬は社會的

感情の基礎をなす。

百年前には人々は人間の勞働及びその勞働に基く祝福を印象深く幼兒に提示することをよろこんで骨折つた。今日に於ては人手の活動は機械によつて止められ、硝子ミ鐵の企業の蔭へ隠れてしまつたが、然し最後には創造的な人手の秩序ある効果が企業の根柢に横はつてゐる。今の繪本は煙突掃除人やバン屋なごで満々てゐる。それは益々幼兒の嘲笑の目標にミ下落して行つてゐる。

幼兒に勞働に従事する手工業者を示せ、又五月一日に彼等の職場から堂々出發する群列を幼兒に示せ、そうすれば幼兒は彼等の活動について機械の助けに對する理解を得るであらう。我々の生活の技術化ミ分化は數多の新らしい榮養、職業を發生させた。それは昔の繪本には存在せぬ。故にこゝに於て機械の役割を示すこと、人間の手に存する責任、創造的な力及びその世界を示すことが必要である。是等の職業が尊敬の伴はぬ凡ゆる戲畫から救ひ出されるならば、ユーモアはユーモアなりに生活の秩序を紊さぬ場所に己れの居場所を見出すであらう。



凡ての労働はその職場が中心である。我々はそれについてたゞ見物人として感じる中で、如何に多くの人力が職場で活動してゐるかに對して多くの考へを致さぬやうになつてしまつてゐる。幼児は一つの新築を數時間でも眺めてゐることが出来る。だが滅多に種々の活動の意義深きことが幼児に明瞭にされぬ。一つの職場が成立つたために必要な凡てのものを、即ち組織的な構成を幼児に認識せしめよ。

獨逸の文化映畫は多くの事物を大人に對し適切なる實寫に於て眼前に示す。かゝる一覽概覽はそれが容易に幼児にも理解し得べき事象なる限り、幼児にも與へられねばならぬ。如何に街路が造られるか、如何に自動車道路が出来るかを、その年齢に於ては不適當なる如き深い分析を加へるこゝになしに、示せ。

但し我々が上に引例したものゝ内容を示すに當つては、いかなる方法が言葉と繪の正しい表現となるかの點が最も重大なこゝである。

### 形式に於ける氣高さ、高尚さが努力されるべし。

昔の繪及び格言に於て我々はその表現の必然的形式を見出す。昔の繪及び格言は事物の核心を衝いてゐる。人々は今日でも尙、單純化によつて、即ちスケッチ風の表現により、又は均整的な根本形式への還元により、又は色彩を三原色だけに止めるこゝによつて繪の中の本質的なものへ到達し得るを信じてゐる。

最古代の繪に於ける原始性——ドゥーラー時代以前の本彫の如き——は新らしき印刷術との開拓的協力であり、この協力の結果完成された形式が生じたこゝを我々は考へて見る必要がある。前世紀の大なる有能者は如何なる場合に於ても、即ち彼等が幼児のために描くときでもその最大限の能力を盡した。そして大なる効果を擧げた。彼等は自然を低下せしめず、むしろ自然を彼等の模範的純粹的特色にまで高め上げた。彼等はその注意を一部分又は或る限界に捧げたのでなく、

彼等の心には全體ミ云ふものが、完全な姿で映つてゐた。對象をかく把握することから出發して彼等は、それ／＼豊富であつて、而も繪の中に生活の意義深きものとして登場する處の形式へミ到着した。かくて對象は生命を得たものとして働き、それによつて彼等が僅かな線で満足してゐる處でも、その形式は決して空虚ではない。却つて凡ての部分から生命が溢れ出てゐる。かゝる感得せられたる形式は我々には「高貴なもの」として感じられる。

我々は幼児が言葉を語る處の繪を見ることを欲してゐるミ言及した。幼児は中身の無い袋だけでは満足しない。

幼児がその最幼少の時には事物の本質を色に於ても形に於ても、たゞ粗雑な區別並びに幼兒本然の特質で理解することは我々も知つてゐる。然しそれだからミ云つて色ミ形を反對色、相反形で示すことを以て幼兒繪本のスタイルミなすやうに導いてはならぬ。なんミなれば精神的活動の根本機能が幼兒に於て發育すれば、幼兒はかゝるものをすぐ超えて成長してしまふ。

幼兒の表現能力は他の分野で完成する。それミ繪の觀照能力ミは嚴密に區別されねばならぬ。幼兒が自分の繪で人間の頭をほゞ一定の形で表現し得るすつミ以前から、繪に於ける甚だ微妙な心的變化を幼兒は認識し得る。

繪の需要者は將來に於ては再び確實なる手腕を有し、自然へ深き愛で沈潜し、自然の本質を理解し明瞭な表現を示す能力ある藝術家へ向はねばならぬであらう。それは本世紀の初頭にかの藝術教育運動ミの關聯に於て效果的に起つたことである。藝術家が眞剣さミ責任意識を再び獲得すべきものたるミ共に、戲畫やグロテスクな畫は幼兒の繪本から驅逐されねばならぬ。

## 新基礎に立ちての建設

新國家に於ける幼兒繪本が果たすべき使命は上述の如く從來の形態の價值あるものを新たに生ずる生活の流れへ運び入れるこゝに汲々たるべきではない。運命を開拓する力を明かに認識し、その時代のみが解決し得る新形態へミ突進んで行く處の我々の時代の闘士的精神こそが、目標ミそれミ向ふ道筋を定める推進力ミなる。

### 國民的感情の強化

幼兒の繪本へまで根強く食込んでゐる從來の世界觀の有害なる傾向の淨化へ國民的結合の改革的思想は進んでゐる。コスモポリタンの寛容は我々幼兒に對しなほ相變らず黒奴や凡ゆる種類の異民族を遊びの友ミして與へやうミしてゐる。幼兒の健全なる感情は彼等を同胞ミして認識するこゝを拒否し、人々の期待に反して、先づ驚異ミ笑ひが爆發する。この異種族に對する本能的拒否を巧妙なる偽裝によつて克服するこゝは自由主義的領域の狡猾さ、職業的熟練によつて保たれてゐる。我々の感情に全く對立するこの民族は再び彼等に適應する場所を占めねばならぬ。彼等が繪本に登場するならば彼等はヨーロッパ文化での虚飾にも拘らず今日の時代まで彼等の行爲の中に保持されてゐる處の異民族的異種族的なもの、シンボルミしてでなければならぬ。彼等は決していたづらに幼兒の娛樂の種ミなるべきでない。

更に、前世紀並びに現代の繪本を見るに全卷を守護の天使に捧げたる信仰的敬虔的思潮の遺物ミして、エンゼルが過度に廣い空間を占めてゐるこゝが著るしく眼に付く。我々は幼兒を天帝の奇蹟から引離そうミするものではないが、然しかる屢々無思慮な又却つて非宗教的な天使活躍は幼兒に自然のより大なる奇蹟をそれが永遠に更新されるまゝに示し、その上正しき誤れるこゝに對して決定力を有する人間を示す代りに、幼兒を「凡ては自然に解決がつく」ミ云ふ信仰へ移す懼れがあるのを配慮せねばならぬ。我々の幼兒を正しく認識すべき明白なる決定の前へ置き、彼等の健全なる意識を切實なる比較によつて強化し、彼等を熟達せしめ、取るべき態度を知らしむるならば、我々は彼等を生活に對して有爲なるも

のならしめ得るに共に、而も我々の権限外の領域に觸れずに住むであらう。

### 國民性自覺の涵養

國民性ニ密接に結合せるものは故郷、格言、詩歌、遊戲、慣習、祝祭等に現はれてゐる國民結合的力の精神である。自信、強固、優美、敬神への努力は國民的義務になる。これらの特性が後に國民の象徴として幼児の心に深く銘するやう、早くから幼児もその詩歌、格言等に於てこの雰圍氣へ導入されるべきである。

政治的生活の潮流は我々國民に深く浸潤してゐる。そして幼児をも引入れてゐる處の新時代を作つてゐる。國民的勞働の日々としての五月一日及び收穫祭は幼児の體驗に直接的な關聯に立つ。繪本は祝祭やその他色々の印象生活保全のための勞働、努力、鬭争の象徴にまで深化されるやう配慮せねばならぬ。

### 社會感情の高揚

市民的時代に於ては協同體精神の涵養は特に家庭に於て又家庭を中心としてなされたが、それがこの境界を忘れた時益々功利的原則へ墮して行つた。國民協同體の思想は家庭の協同體活動に新たに使命を與へ、且つ繪本が效果的に準備し、確信的に理解せしめ得べき形式へ形成せしめて行つた。幼児はクリスマスのサンタクロースにたゞ自分のためのみ親しむのでなく、早期から大人の犠牲心を理解し、新生活が彼から要求する處の犠牲精神へまで教育されるやう、サンタクロースが他の貧乏な同胞に對しても贈物を送るやうに習慣付けられねばならぬ。冬季救醫工作は凡ての國民同胞を活潑なる愛情ニ配慮を以て相互に結合せしめ、扶助力へ義務付けてゐることが實例を以て示されねばならぬ。

### 生活の新體形への導入

國民の凡ゆる部門の全體への統一の思想は我々の行軍的隊形にも現はれてゐる。青少年はこのリズムから最も深く感動

をうける。現今、出来ればすぐ突撃隊員又は兵士にならうと欲しない青少年は恐らく一人もゐまい。小さな幼児さへがこの目標へこ突進する。この傾向を彼の心の中で強めるこゝが我々の責任である。繪本は幼児に國防軍、獨逸兵の映像を深く魂の中へ印象付けねばならぬ。

問題はスナップ風に幾つかの兵士生活の繪が斷片的に示されるだけでは解決されぬ。斯る印象は幼児が生活自體で自ら手に入れる。幼児はより多くを知りたいのである。眞實のものを眞實ならざるものから區別して示されたく思ふ。武器の實際とその使用法を、兵士は如何にして死に面するかを知るべきである。斯る繪本は然し各兵士が所有する軍隊入門書の如きものがたゞ子供向きに書き直されたゞけではならぬ。それ以上につねにテュピカルな感情が再現されてゐねばならぬ。

### 技術への熟知

他に比較して技術はそれが幼児の體驗に於ては幼少の頃から一つの廣い空間を占め、我々の世紀に於ては一つの決定的特徴をも與へてゐるに拘はらず、幼児の繪本に於ては極く僅かにしか取入れられてゐない。繪本はありふれた交通機關の表現以上を殆んき出でゐない。

繪本も又我々の自動車道路が國中を貫通して居り、巨大な橋が架けられ、規模大なる工場が施設されてゐる時代に順應し、幼児をして我々國民の巨大なる業績に誇りを抱かしめるこゝが必要である。早くから幼児には、鳥のやうに飛翔し、巨大な歩みで遠距離を克服し、水上を歩行する憧憬がめざめる。この幼児の希望夢が幼児の單なる遊戯を超へて技術的解決へまで發展して行く。即ち飛翔(鳥と共に飛ぶ、投箭、グライダー、飛行機)、浮揚(シャボン玉、風船、落下傘、輕氣球、ツェッペリン)、水上歩行(葉の舟、丸木舟、大洋の巨船)その他。かゝる繪本が同時に意義深き活動への刺戟を與へうるこゝ、又幼児の歌、言葉のあそびをも取入れ得るこゝは自明のこゝである。

## 結 語

以上の觀察は幼兒繪本を新時代に取殘されてゐた状態から引出してゐる。兩親、教育家、そして教育事業に責任を分擔してゐる凡てのものは幼兒繪本のために反省しなければならぬ。我々は繪本に於ける無責任な仕方及びその害毒を示し、國民の訓育のために戰はねばならぬ。

我々兩親、教育者はその際責任ある出版者、詩人、藝術家、書籍商の協力を仰ぐ。なんじなれば同一義務、同一義務認識が我々を一致させてゐる。

幼兒こそ我々國民の未來である!!

(完)

## 倉橋主幹此の夏休みの講習日程

七月

- 十二日 松江市(文部省青年學校講習)
- 十三日 名古屋市(文部省青年學校講習)
- 十五日 名古屋市(文部省青年學校講習)
- 十七日 京都市(京都市保育會講習)
- 十八日 大阪市(私立幼稚園聯盟講習)
- 十九日 大阪市(私立幼稚園聯盟講習)
- 二十一日 東京市(文部省保育講習)
- 二十二日 東京市(昭和保姆養成所保育講習)
- 二十三日 東京市(昭和保姆養成所保育講習)
- 二十四日 東京市(女子體育研究會教育講習)

八月

- 七日 世界教育會議
- 十一日 静岡市(静岡縣青年學校講習)
- 十三日 佐賀市(文部省家庭教育講習)
- 十四日 見附町(蒲原郡教育會教育講習)
- 二十一日 京都市(西本願寺保育講習)
- 二十二日 京都市(西本願寺保育講習)
- 二十六日 札幌市(文部省家庭教育講習)
- 二十七日 札幌市(文部省家庭教育講習)

# 子供黨列傳 (二)

山上憶良 附「乳母」

石井庄司

他人の子ではなく、わが子のこゝに就いてではあるが、こにかく「子の愛」に就いて力強い歌を詠んだ山上憶良のこゝは、忘れ難いものである。一般の子供のために盡くした人としては、いさゝか當らないところもあらうが、この列傳から省くに忍びなかつたのである。

萬葉の歌人としての憶良の名は、既によく知られてゐる。しかしその作はさういへば、憶良が子の愛に就いてのものである。憶良の名が人の口にせられるこゝの多いのは、一に子供黨としてであると言つても過言ではなからう。

「瓜食めば 子ごも思ほゆ 粟食めば ましてしぬばゆ いづくより 來りしものぞ 眼交に もこなかりて 安寝しなさぬ」

の長歌の方は知らなくても、反歌の方の、

銀も金も玉もなにせむにまされる寶子に如かめやも

の作を知らない方は少いであらう。この歌の序として、釋迦如來の言葉を引いて、「愛は子に過ぎたるはなし」を擧げ、また「至極の大聖すらなほ子を愛しむ心あり。まして世間の蒼生誰か子を愛しまさらめや」を述べてゐる。

憶良がこの作をなすに就いての事情はよくわからない。しかしこの歌の含まれてゐる萬葉集卷五の歌の排列からみるに、憶良は筑前の國守として、九州に下つてゐたききものである。多分都に置いてきたわが子をなつかしく思つて詠んだものであらう。「瓜食めば子さも思ほゆ、栗食めばましてしぬばゆ」こいふのは、いかにもよく氣持が出てゐる。長歌の方には、「父親として」の作者の面目乃至心境がでてゐるが、反歌の方には、「まさされる寶子に如かめやも」こ、稍々一般的に子供こいふものは、さういふものかこいふこきを言ひ現はしてゐると思ふ。そこに此の歌の非常な人氣があり、また普く世に流布された所以であらうと思ふ。

憶良の作にはもう一つ有名ながある。「憶良らは今は罷らむ子なくらむその子の母も吾を待つらむぞ」の作は、萬葉集卷三に出てゐるが、製作の年代はよくわからない。九州に下る前であるか後であるか、疑問であるが卷三の歌の順序では、大伴旅人の讃酒歌の前にあるので恐らく天平のはじめ頃であらうと思はれる。さすれば「銀も金も玉も」こ歌つたよりも後のものとなる。なほ憶良には、「老身重病年を経て辛苦す」こいふ題で、親としての苦しみ、子らを思ふ切なる情を述べた作もある。しかし何こいつても憶良は「まさされる寶子に如かめやも」の一句を以て、子供黨としての本分を十分に發揮し得てゐるのである。

わが子の愛の切なるこきを述べたものとしては、吾々はまづ古事記上卷の終にある豊玉毘賣の命のこきを想ふ。毘賣は海神の御女でいまして、火遠理の命即ち山幸彦の御后である。海幸・山幸の傳説の終結として、山幸彦が龍宮に赴かれ、その海神の御女豊玉毘賣の命の間にお生まれになつたのが、鵜葺草葺不合命である。そのこき、火遠理の命が産殿を垣間見なされたので、龍宮へお歸りになつたのであるが、わが生みの子の戀しさにえたへたまはず、その妹の玉依毘賣を遣はされたこいふ。この海幸・山幸の傳説地は、今の宮崎縣の青島であり、豊玉毘賣の命の産殿の建てられたところは、今の



鵜戸神宮うづといふことである。太平洋の怒濤の押しよせる海岸の一大巖窟内に崇厳な社殿が齎あづかり祀られてゐる。古事記には「その子を浴ひた養たしまつる縁ゆかりによりて」を書かれてゐるが、この「ひたす」といふ言葉は、今日もなほいふ「ひだち」のことである。古事記中巻、垂仁天皇の條、沙本毘古さほんひこのころにも「日足ひたす」といふ言葉がある。そして「御母みも」（乳母）、「大湯坐おほゆゑ・若湯坐わかゆゑ」（幼児に浴をさせることを掌る婦人）の語が見える。かういふ人々の手によつて「日足し奉る」のである。

かやうに幼児の養育者としての「乳母」等の言葉は、既に日本書紀神代卷下の一書に見えてゐる。嚮に述べた山幸彦が鵜草葺不合命のために「他婦人あたしを取りて、乳母ちちも、湯母ゆも及び飯嚼いひがら、湯坐ゆゑびとを爲したまふ。」とある。乳母の外に「湯母、湯坐」の語があり、更に「飯嚼」といふ役もあつたのである。纂疏に「飯を嚼みて兒を哺しむる者」とあるが、飯を口に入れて嚼みながら、養ふの意であらう。乳母は乳を主とした名稱であり、湯母、湯坐もまたその職とするところを以て稱へたものであらう。上代に於ける幼児輔育の役、その仕事の分擔の模様も伺はれるのである。山上憶良のこゝを述べて、談偶々、日足しに及び、三轉して、上代輔育者の名義なごうになつてしまつた。事の序に、萬葉集にある「乳母」の歌をあげておかう。

みざり兒の爲ためこそ乳母ちちもは求むもとみいへ乳飲めや君が乳母求むらむ（卷十二）

「乳母」は嚮にあげた神代卷のやうに「ちちおも」といふべきであらうが、本歌第五句目の原文は「於母ちちも」とあり、「ちちおも」の略言りやくみて、乳母も「おも」と讀むべきであらう。そして乳母は要するに幼児輔育者の一般名稱いんぱんと思はれる。

# 露子さんと晴夫ちゃんのお話

武田雪夫

1

さあ、このお話は、露子さんつゆこと小さな弟の晴夫ちゃんはるをのお話ですよ。

露子さんは、お母さまから、

「晴夫ちゃんは、まだ小さいから、ひそりで連れて出てはいけませんよ。」と言はれてみました。

今日は朝から雨ふりで、表おもてであそべないので、露子さんは、ほんこにつまらなくて、つまらなくてなりませんでした。

ところが、お晝すぎになると、雨がやみました。露子さんは、うれしくてたまらないので、弟の晴夫ちゃんを連れて、表へ出て行きました。ご用をしていらつしやるお母さまには、だまつて表へ出てしまひました。

まあ、いけない露子さんですこし。

おやおや、表の道は、ドロドロです。でも、露子さんも晴夫ちゃんも、ゴムの長靴をはいて來ましたから、さんなぬかるみだつて平氣です。ふたりも、長靴で、ベチャベチャ泥をはねながら、ご門の前の道を歩きまはりました。

チンチンチン自轉車が、走つて來ました。自轉車は、ベチャベチャミ、露子さんたちの長靴よりも、すつミ澤山泥をはねて行きました。ブーブーブー自轉車も、走つて來ましたよ。自轉車は、ベチャベチャミ、自轉車よりも、もつミ澤山泥をはねて行きました。

そこへ、ごごかの大きな犬が來ました。犬もベチャベチャミ、小さな足で、泥をはねながら歩いて來ました。

その犬を見るミ弟は、びつくりして、かけ出さうしました。ところが、すぐにバチャンミ、うつむきにころんでしまひました。

弟は、泥の上にくろんだまゝ、泣き出しました。

「ワアン、ワアン、ワアン。」

露子さんは、いそいで弟を引つぱりました。やつミ晴夫ちゃんは、起上りました。でも、まあまあ、大へん。お手々も足も、エプロンも、晴夫ちゃんは一めん、まつくろくろの泥だらけです。

まあ、ごうませう。露子さんは、ほんきに困つてしまひました。するこそこへ、さつきの犬が、また來

ました。こんどは、ずつこそばへよつて来て、晴夫ちゃんの長靴に鼻の先をつけて、クンクンこかぎました。晴夫ちゃんは、おぎろいて、いきなり露子さんに抱きつきました。

露子さんは、晴夫ちゃんを、しつかり抱いてゐました。そして、お姉さまですから、こはがらないで、犬の方を向いて、

「シッ、シッ、シッ。」と言ひました。

するき、犬は、やつこ向ふへ歩いて行つてしまひました。

それでは、さあ、もうよいでせう。露子さんは、抱いてゐた弟をはなしました。おやおや、露子さんが、きたなくなりましたこと。そら、エプロンも、スカートも、みんな泥だらけになつてゐます。晴夫ちゃんのお手々やエプロンの泥が、みんな露子さんのきれいな洋服についてしまつたのですね。

露子さんは、それを見るき、びつくりして泣き出しました。

「アーン、アーン、アーン。」

さうするき、晴夫ちゃんも一しよに、また泣き出しました。

「アーン、アーン、アーン。」

「ワアン、ワアン、ワアン。」

露子さん、晴夫ちゃんが、二人で一しよに泣き出しましたので、お母さまはおぎろいて出ていらつしやい

ました。お母さまは、二人をこちらになるこ、笑ひながら、

「まあまあ、ひろんこちゃんのお嬢ちゃんも、ひろんこちゃん坊ちゃん、ひろんこ泣かないで頂だい。今きれいにきれいに洗つて上げますからね。」とおつしやいました。

するこ、露子さんはお首をふつて、すぐに泣くのやをめました。するこ、晴夫ちゃんも、露子さんの真似をしてお首をふるこ、すぐに泣くのやをめました。

お母さまは、二人をお湯殿へ連れて行つて、お洋服をぬがせるこ、お水をかけて、きれいにお手々や足を洗つて下さいました。そらそら、こちらへチャアチャアチャア。こんごは、こちらへチャアチャアチャア。

まあまあ、二人も、きれいになりましたこ。さあ、それでは、きれいなお洋服にかへて頂きませう。おや、いつの間にか、よいお天気になりました。お日さまが、キラキラこ、ほんごにまぶしく照つて来ました。するこ、お母さまが、おつしやいました。

「まあ、お天気になりましたね。それでは、今晚、お父さまに、縁日を見に連れて行つて頂きませうね。」それを聞くこ、露子さんは、ほんごにうれしくなりました。それで、にこにこして、すぐにお返事をしました。

「ええ。」

するこ晴夫ちゃんも、元氣よくお返じをしました。

「はアい。」

まあ、露子さんも晴夫ちゃんも、二人とも、ほんまにお利口さんですこと。

それでは、露子さんミ小さな弟の晴夫ちゃんのお話は、これでおしまひ。

第七回世界教育會議時間表

時間 月日	七月三十 一日 土曜	八月一日 日曜	八月二日 月曜	八月三日 火曜
8-9			明治神宮参拜	
9-10			部會	部會
10-11				
11-12				
12-1				
1-2				
2-3				
3-4				
4-5			帝國教育會 長及 大總長 招待 東京府 市	帝國教育會 長及 大總長 招待 東京府 市
5-6				
6-7				
7-8				
8-9	代表者款 迎會	東京音樂 校長招 待	第一 總會	文部大臣 招待
9-10		和洋音樂會		歌舞伎座 觀劇
10-11				
時間 月日	八月四日 水曜	八月五日 木曜	八月六日 金曜	八月七日 土曜
8-9				
9-10	部會	部會	* 部會	部會
10-11				
11-12				
12-1				
1-2				
2-3				
3-4				
4-5	新宿御苑 觀 (豫定)		外務大臣 招待	
5-6				
6-7				
7-8				
8-9	第二 總會		能樂ノ 觀賞	第三 總會
9-10				
10-11				

\* 映畫教育部ハ國際劇場

# 路地の子供

水谷年恵子

二人竝んで歩けないほぎ狭い路地が五六町續いてゐる。兩側は小家のお勝手口であつたり、板塀であつたりして、時折子供に逢ふ外は、殆ど人通のない小路である。

この路を朝通るミ、所々の家からラヂオ體操の號令が漏れて来る。又或家では數人の子供が狭苦しい一間で兩親ミ食卓を圍んで朝食をしてゐるらしい氣配が感じられ、或家では男の兒か女の兒か分らないが、お母さんに疍高い聲で叱られてゐる。「學校を休んでばかりゐるため、だめつ」。

家ミ家ミの屋根に挟まれて、遠慮がちに枝葉をさしのべてゐる枇杷の一本が、それでも黄金色に匂ふ實を結んでゐる。塀の下に落ちた實がしなびて幾つかころがつてゐる。

日が暮れてから通るミ、何處かの家の窓から漏れるあかりが、路地の一部分にぼーつミ射してはゐるが、今日一日の疲勞ミ塵埃ミでよきんだ暗がり流れ込んで來て、此の

狭い路地を眞黒に塗りつぶさうミしてゐる。その鼻の先へ、突然「シヨ、シヨ、シヨ」寺の庭は、晴れやかな子供の歌がぶつかつた。思はずにこりミするミ、「ボンボコボンノボン」ミお囃しが後へ流れた。

雨の日に、餡パンか何か買つて來た紙袋を大事さうにかかへて勢よく男の兒がやつて來た。雨に濡れるのが嬉しいやうな顔をしてゐる。少しおくれで蝙蝠傘が歩いてゐるやうな恰好で女の兒がやつて來た。「兄ちゃん」「兄ちゃん」ミ傘の中から呼續けて行くのがあはれに聞えた。

初夏のすがすがしい午後、四つ位の男の兒が、さつぱりした單衣にへこ帯を締めてもらつて、小ぢやな下駄の音をカツコカツコいさせてやつて來た。私ミ向き合ひになつた時、兩手を膝に持つて來てベコリミ頭を下げた。まあ可愛らしい「小腰をかゝめてすれ違つて、はて誰の子かしら」

と思つた途端に、後で、「アーン」ミ泣聲がした。ふりかへつて見るミ、今の兒が自分の脊位ある犬ミ出逢つて泣いてゐるのであつた。

この路地の入口の所ミ出口の所ミは路幅が三倍位に廣がつて、左側も右側も、家々の表口になつてゐる。中には門構の小家も交つてゐる。併し三倍位に廣がつた路地も、一方はものゝ半町ミ行かぬ中に電車通に出してしまひ、他方はすぐに自轉車なぎのひつきりなしに通る表通りに突當つてしまふ。

午後のおやつから夕飯時までの間に、此處を通つて見ると、子供等は自らこの路地の入口や出口の稍々廣い路に集つて遊んでゐる。私は通りすがりに此處で子供等の色々な姿に接する。又子供等の色々な場面を観るのである。

雨上りの一掬ひの水たまりを、二三人の男の兒が取圍んで、割箸を持つて來て橋を懸けて楽しんでゐる。「鐵橋、鐵橋」ミ一人が叫んだ。その水は或家の入口の敷居際に出來てゐた小さな窪みに溜つた水である。

蒸暑い日もやうやう傾いて、そろ／＼家の前に打水がは

じまらうさいふのに、女の兒が數人まゝこをしてゐる。その中の幼い二人は真塵の切端を路上に敷いて、ころりミ寝ころんでゐる。搗きたてのお餅のやうな、丸みのある白々ミした首や手や足が土の上にこぼれ出て、赤いちやん／＼を着た二人の童女はキャツキャツミ喜んでゐる。姉様ぶつた女の子等が玩具一つ持たないでその周圍にひしめいてゐた。寝ころんでゐた二人のおかつばがこちらに向けてゐた、あの真黒い足の裏が、その時私の臉に焼付けられたのだつた。その足の裏からいつも生々ミした土の香を放散してゐるやうに感じるはぎうしたこゝであらう。

「あたいにも頂戴」一兩のお掌々を重ねて、小さな顎をぐつ／＼つき上げて、小父さんにねだつてゐる女の兒がある。も一人の女の兒は無花果の葉つ葉を一枚貰つてにこ／＼もてあそんでゐる。小父さんはよその塀の外に立つて、「叱られるよ、そんなに葉つ葉を盗つたら。」ミ笑ひながら言つて、一枚もぎ取る所であつた。無花果の葉陰から、乳首のやうな青い實がちらつ／＼覗いて見えた。



# 小向喜美女史の勇退



本郷第一幼稚園長として令名あり、東京保育界の大先輩として、斯道のために久しく努力貢献して居られた小向喜美女史は、豫てから、後進に道を開く心を以て辭意を當局に申出て居られましたが、このたび勇退せられることになりました。女史は明治二十六年大阪府師範學校女子部を卒業、直に同校附屬幼稚園保姆を命ぜられ、爾來引つゞき幼稚園教育に従事せられたのであります。大阪市船場幼稚園保姆を経て明治三十三年から東京に移られ、本郷區第一幼稚園の前身ともいふべき東京市誠之小學校附屬幼稚園の主任保姆として活躍、昭和十一年十二月、第一幼稚園が獨立するに至り、その園長として、東京市に於ける女子の幼稚園長として斯に氣を吐いてゐられたのであります。幼稚園教育者としての功績の大なること、斯界のために感謝にたえません。しかも、女史はその本務に於て成績を擧げてゐられる傍、多趣味多藝驚くべきで、疾くから大阪に於て丸山派畫家香西翠山氏の門に入られたが、東京に移られてからは明治畫壇の巨匠橋本雅邦氏について狩野派を習得せられました。更に遊戯體操に就て究められるところ深く、明治三十六年以來或は女子高師井口アグリ女史に學び、或は東京女子高等師範學校體操專科聽講生として修業、次に二階堂女史に就て研究、その道を究められました。更に大正十三年以後は日本舞踊の

研究に進まれ、初めは林きん子氏の研究会に入られましたが昭和五年からは現代日本舞踊の大家元藤蔭靜枝氏の門に入つて師範免許を得られました。藤蔭喜美枝はその師範名であります。尙また細川流盆石を平木玉山氏について修められ、同流師範免許を得て、玉溪三號してゐられます。多方面の趣味を究めてゐられること、驚嘆の外はありません。

茲に女史の多年の功績を思ひ、今後も亦幼稚園界のために、その御健康を祈つて已みません。因に女史の後任として、麴町區番町幼稚園の檜山京子氏が本郷第一幼稚園長に任せられました。(記者)

### 會 八月號休刊

本誌八月號は休刊し、九月に於て八、九兩月號を合冊發刊いたします

お暑さの折から皆様御機嫌ようよき夏をお過しなさいませ。

昭和十二年七月

日本幼稚園協會

# 幼稚園を覗く(一)

大阪帝國大學醫學部講師 醫學博士

竹 村

一

倉橋先生、

○  
随分長い間、御無沙汰をいたしました。「幼児の教育」の巻頭では毎月お眼にかゝりますが、親しくお顔を拜するところが、さて幾年になりませうか。先日、先生の學校で「第十六回全國聯合學校衛生總會」が開かれました際、先生にきつゝお眼にかゝれるこゝだミ楽しんで上京しましたが、お忙しい先生なので、さうくお眼にかゝれず、先生の御留守の幼稚園を覗いて、しほくミ歸途につきました。

「教育研究」の四月號で、いつも通りすつきりした先生の氣持のよい論文を拜見しました。「兒童の全體生活に即する低學年の教育」さいふのは小學校の先生は勿論、幼稚園

の保姆諸君も一度は讀んでいたゞきたいと思ひました。

私が研究對象を幼稚園に置いて、日本の國寶さもいふべき江戸堀幼稚園長膳先生の膝下に入門したのは、確か大正三年頃であつたと思ひます。江戸堀幼稚園に入門してから、膳先生に保育法や、保育に關する歴史や、恩物論等を教はつてゐる間に、先生や、野上先生、檜崎先生、横川先生、氏原銀先生、望月先生の方々にお眼にかゝりいろいろのお話を承るこゝが出来ました。

それから、凡そ十年間は、幼稚園におりました云つても差支へがないと思ひます、その殆、大部分は、山樹儀重先生の御世話で、ランバス女學院保姆科で暮しました。その幾年かの間の同窓が、いまは立派な園長さんにおなりに

なつてゐられます。例へばランパス女學校の現園長立花先生、濱寺幼稚園長大隅先生やその他随分澤山おられることであります。滿鐵の研究所におられる心理學界で有名な朝日先生や、近日逝去されました朝鮮總督府の學務局長の山田先生も確かに其頃御一緒だつたと思ひます。

それから、私の研究對象を、中等學校の生徒に求めて、樟蔭高等女學校長伊賀先生にお教へを乞ふ事になつてから二十年の歲月は流れました。其間に高等科の生徒ミ机を並べて、伊賀先生から教育哲學史の御講義を數ヶ年間聞かせていたゞいてから、大分私の研究對象がはつきりして参りました。御世話になつてゐる間に、又私の心持ちが、大學へ再度の入學、ミいふことに動いて、石原先生の門下生になりました、石原先生がおやめになつてから、梶原先生に代られてから、今も尙、昔ながらの研究對象を追ひ求めながら、まだに、迷つては、さまよひ歩いております次第であります。

○

倉橋先生、

私の研究對象が、「こゝも」の幼稚園や、學校に於ける健康生活「ミいふことである事から、自然に、足が教育「ミいふ」畑に歩いてみたくなりしました。二十年餘り「ミいふ」ば随分長い間の様に思ひますが、膳先生に手を取つていたゞいて、その一歩みをしてからけふまで、され程も進んでゐないことを思ふに、先生方々に對して自分の力なさを恥かしく思ふ心で一杯になります。

然し、學校衛生「ミいふ」仕事は、今迄の人の考へてゐた醫學の畑から、教育の世界へ移し植ゑる事だけは、ごうやう出来かかつた様な氣持がして、獨りで悦んでゐる時もあります。其私の心持は丁度、「サイタ サイタ サクラ ガ」サイタ「ミいふ」様な氣持が致します。

「サイタ サイタ サクラ モ サイタ」ではなく、

「サイタ サイタ サクラ ハ サイタ」でもなくて、「サイタ」クラガ サイタ「ミいふ」ガの心持であります。

そこで、私は又、私の目標を申しますか、理念を申しますか、それを實際へミ、こゝ考へる様になつてから、中等學校から、小學校へミ今度は逆に、こゝ數年間やつて参り

ました。

いよ／＼、小學校から幼稚園へ一昨年あたりから進む様になつて、こゝに幼稚園を再び覗いて見る様になりました。

先生、永たらしい事を申上しまして御許し下さい。然し、

私が幼稚園から大學へ、又大學から幼稚園へミ移り變つて來たこゝの、私の心持、私の一路の旅程を申上ておかぬミ、長い間、御無沙汰をしてゐて、何をしてゐたかさいふこゝを、先生に御報告申上るこゝが、私が「幼稚園を覗く」こゝについての責任である様な心持がしましたので、まづ、この文をかく前書に御挨拶を申しました次第であります。

倉橋先生

これから私の「幼稚園を覗く」まゝに、いろ／＼のこゝを御報告申上やうミ考へて居ります。御暇の時に、お読み下さいまして、いろ／＼ミ又御教へにあづかり度いミ思ひます。

此頃、私が幼稚園のこゝも、(こゝも、ミこゝ)書くのは、私の一つの癖であります、お許し下さい。之は、「日本の子供」

さいふ意味で、こゝも、ミかきます)を少しばかり身體検査をいたしました。が、まづ最初に氣がついたこゝは、「脊柱の形態」異常者が割合に多いさいふ事です。殊に、私が最初、膳先生の膝下に、恩物論の第一を教はつた時代を追憶してみますミ、少しは増加したのではなからうかさいふ様な感じが致しました。

勿論、肩胛骨の遊離した者、背筋の發育の悪い者、胸廓の異常者は昔から澤山に見ましたが、脊柱の形態異常者、殊に圓背の比較的多くあるのに驚きました。

私の経験から申しますミ、幼稚園のこゝも、は、其殆全部が生理的脊柱彎曲であつて、異常を見出す事は甚稀でありました。處が、今度は、少々多い様な氣が致しました。勿論、私の關係した幼稚園は、僅か三つか四つ位しかありませんので、特にそれ等の幼稚園が、悪かつたのかも知れませんが、然し、或はこれが今の幼稚園のこゝも、一つの傾向ではないかしらんミも考へてみました。幸に他の多くの幼稚園には、脊柱彎曲の異常者がなければ誠に喜ばしいこゝだミ思ひます。

先生が「教育研究」に

「教育はいろいろの内容をその目的内容とする。その一つ一つの内容は教育の目的を構成してゐるものである。

そのいづれをも輕視すべきであるまい。(しかし、その一つ)が教育の目的そのものではない。)それ等から構成せられてゐる全體こそが教育の目的である。」

ミ全體性についてお書きになつておられます。篠原先生は「教育學研究」(第一卷第十一號)に「全體的にいふこと」について述べられておられます。入澤先生は昨年三月「全體觀の教育」ミいふ著を公にせられましたが、それ等を通して教へらるること、ことに拜借して、私の領域について申上げてみます。學校衛生も教育ミいふ全體の一部分であつてこそ意義があり、價值がある。然し、それ自體が教育の目的そのものではない、教育の目的を構成する一つの内容である。ミいふことであります。

保姆諸君の中には、幼稚園衛生ミいふことを、醫學として、或は醫學的にのみ解釋しておらるゝ方がありはしないかと思ふことがあります。

さて話を元に返して御報告申上ますが、……………(未完)

## ○御注意

日本幼稚園協會主催講習會、文部省主催講習會は全く別の主催でありますから、文部省主催の方の御聴講は地方長官を徑て正規の手續をなさらなければ出来ません。

本協會へお申込みになつても手續は出来ないの  
でございます。右念の爲め御注意申上ます。尚  
締切以後でも一應各地方長官へお申し込みなさ  
つてごらん下さいませ。

右手續については七月五日の官報を御覧下さい。つ  
まり府縣廳へ願ひ出られて推薦せられる順序です。

## 日本幼稚園協會

# 父への思慕

章の母

「去年の七月十二日、幼稚園に入つて間もない章が、父を東京驛に見送つてから早くも一年の月日が立つ。

この七月歸朝の豫定が延びて秋になるさいふ便が、最近入手した。「今年の夏休みこそは」ミ、多くの期待をかけてゐた子供らの失望は、殊に深い。私も、緩みかけた心の絆をもう一度撚戻して、子供らのよき相手にならなければならぬ。さあれ、もう秋まである。自分の子で自分の子でない、預り物をしてゐるやうな気分から解放される日を待ちわびつゝ、この一年、章の幼心が、遠い父親の許へミ結ばれた思慕の糸を、繋ぎ合せて見るこゝにする。

## 父の出發前後

出發の前の晩であつた。

「お父様は、明日から、遠いく御國を廻つて来るから、大人しくお留守するんですよ。そして御姉様が二年生になり、章が池の組になつたら歸つてきますからね。」

「さいふ父の膝へ、突然、僕もつれていつて。」

「さいざりよつた章の眞顔が浮んでくる。前々から、トランク、スーツケースの物々しい荷物が届けられるのを、子供心に唯事ではないミは思つたらしいが、その「遠いく」。ミいふ意味が分りかねてゐたやうである。が「池の組になるまで御歸りにならぬ。」ミなるミ、よほぎ遠いのだなミいふこゝミ、愈々明日からさいふ切迫した宣告をされるミ、さすがに堪へられなくなつたのか、突然父の膝へ上つてしまつた。

「章は何が好きだつたのかな。汽車か、自動車か、御土産

は何にしよう。」

「言はれても、

「うーん、いや、僕もつれていつて。」

を繰返すばかりである。平生無口で黙々こ遊ぶ性の草にも、こんな感情的な場面があるのかしらこ、半ば感に打たれ、半ば胸つまる思で暫し慰める術をしらなかつた。なだめなだめた末に、

「それなら、このお家程のお土産なくちやいや。」

こいふこいで、その夜は父に寝かせて貰つた。

「こんな光景が、又一年後でなければ見られないのか。」  
こ、私も眼頭がうるんで来た。

翌日東京驛では、見送りの人々の混雑に紛れて、昨日の章としてはむしろ淡々すぎるほぎで、父の最後の握手もはにかみがちであつた。が、東京驛から歸つてきた家の中は、人一人の滅じ方でありながら、まるでがらんこした、もぬけの殻のやうな空虚さである。これが、だれの胸をもついたものか、子供達が私の膝を手を占領しようとする。生れて間もない赤ちゃんまでが、泣出す。

おのがじし 母を占めむき寄る子等に、

我在りこいふか 高く乳兒啼く

私は、瞬間、男まさりのやうな力が、腕に盛り上つてくるのを覺えた。

「さうく。その通り、御留守中は、お母様の御手々を

しつかり握つてゐれば大丈夫よ。」

心の中で祕かにつぶやくのであつた。

### 男の子の相手

女の子の相手は出来ても、男の子の相手は、少々苦手である。お角力もまじりにくい。キャッチボールも、手を廻し足を舉げて打込む型は困難である。里の弟達が日曜なきに、章の相手に罷り出てくれるやうになつた。祖父様が、「忘れられ、わしも」こ章を相手せられるこ、却つてスローモーションを笑はれる仕末。

子供の感情は、大雨砂礫を飛ばすこはあつても、後は雨後の空の如く、何事もなかつた晴々しさである。父の出發當時の激越した感情も、静まれば、もこの快活な章であるのに大いに安心した。併しこの心底には、父への戀情が



黙々として脈打つてをり、時を得れば、意識の表面に浮び出ることを屢々目撃するやうになつた。

## 父の姿

町を通り、父親と同じ位の背丈で、同じやうな洋服の色合を見るに、

「お父様ぢやない。」

こいふのである。あるまじきこいふ思つても、振返らざるを得なかつた。

フィンガーチョコレートを指に挿み、煙草を吸ふ口付をして、「お父様のまね。」こいふ。その所作を笑ひつゝ、一抹の淋しさが胸をかすめる。

カバンの小さいのを貸してくれこいふ。「何にするの。」こいいても、羞かしさうに自分の部屋へ駈込んでしまふ。やがて妹に、「早く歸つてね。」こいはせておいて、「うん、おみやげ買つてくるからね。」ミカバンを下げて外出のまねをする。スツーカーをいくつも自動車に積込ませた當時の父の姿が、いち早く章の網膜に焼付いたを見る。

父の留守中の淋しさを紛らせよう、夏休みになるに

早々鴨川へ出かけた。併し却つて父を偲ぶよすがにならうとは、思ひ及ばぬこゝであつた。東京から遠いので弟達も来ず、知人の家の學生連では、章に遠慮がある。さりさて私に波乗りの藝當も出來がたい。

「お父様いらつしやつたら、去年の茅ヶ崎の様に、沖の方へ伴れていつて頂くんだがな。」

濱邊で砂遊びに興じてゐる手を休めて、沖の鷗を追ふ幼い腫が、時々かういふ嘆聲にうつろになるのを見た。家主のおばあさんも事情を察して一生懸命相手をしてくれる。

「さあ今日はお天氣だから、ボンボがまたお坊ちやまを待つてゐますよ。たくさん取つたら、ひよこ(Hyoko)を(發音)に御馳走してやつて下さい。」

「ボンボつて何さ。」

「オクターブ低音で章が訊ねる。」

「ボンボつて、あの昨日御つかまへになつた、スイ〜飛ぶ……。」

「トンボだよ。ボンボぢやないや。」

自分の片言を棚に上げて、章に方言を訂正されたばあさん

も、今はどうしてゐるか。

鴨川を引揚げて 家へ歸るなり「あらお父様わ。」といふ。なるほご今迄は旅行気分だったので、家に着けば皆揃ふものと思つたのか、久仁子に「ロンドンにいらつしやるのぢやないの。分らない章さんね。」と言はれても、腑に落ちぬ顔付をしてゐるところに、子供らしい純情さがある。鴨川よりおもちやが豊富にあるので、東京着の第一聲も、そのまゝ紛れていつた。

### 父からの音信

父の旅は八月一杯かなり忙しい日程が立つてゐるので、秋風立つ頃には各地の繪葉書が大部畫帖を賑はすやうになつた。アジア特急の流線型列車が、シベリア廣野を横斷する勇姿を飛行機上から撮つた寫真などは、殊に讚嘆措く能はざるやうであつた。伯林動物園の珍らしい動物の種類、オリムピックの運動競技の實況なども、喜んだものである。ベルグラード、ブルガリア、ブタペスト、ブカレストの面白い發信地名に、いつか地圖を見るやうにもなつた。ドイツのヒットラーが獨逸國章を腕に舉手の禮をしてゐる

もの、イタリーのムッソリーニが馬上で軍隊を檢閲してゐる爽颯ぶりなど「素敵だな。」こませた口調で飽かずながめてゐた。

かつゑたる心にしみて讀む夫の

文に集る子の頭かな

地圖の上に指を進めて父います

國の遙けさ子らに語るも

パリ畫帖が届いた時、宮殿の莊麗さに眼を見張る姉の興味は興味ならず、ごこまでも、子供の生活の場面を面白がる。

「あゝ僕と同じ幼稚園があらあ。」

キリストの傳道の集りも、宣教師を中に子供等が瞳を輝かして話をきく様は、正に幼稚園そのまゝである。子供ごいふものは、自分ご一番密接なものを興がるものである。

浦島にならぬか

待てご待てご、父は歸らぬ。或日、

「ごんちにお歸りにならないごお父様浦島にならない。」ご眞顔で心配する。現實ごお伽の世界の半々に生活する子

供の質問に、私も眞顔で答へねばならなかつた。

「ほんさね。浦島にならないうちに歸つて下さいよ。」

お手紙お出しませうよ。」

又或日、

「お父様 早く御歸りになるさい、んだがな。」

「かうして」

「さきくミ。」

「だつて、お父様お金一ぱい持つていらつしやるから、外國へゆかれたんだらう。僕その御金頂いて、汽車の大きいの買ひたいの。」

出立前に、換算した外國貨幣を見せたこゝがあるのを、思出してゐるのであらう。母親は子供から、先天的に、金力に於ては信用されないので、少々苦笑させられたが、まづ、父親の絶對性を傷つけまいとして、

「おみやげあんなにおねだりしたのだから、今によいもの買つてきて下さいませよ。」

さいひながら、姉の幼稚園時代の質問を思ひ浮べてゐた。

「お母様、お金つて、毎日使へば終にはなくなるでせう。」

なくなるさきうするの。久仁子の好きなもの買へないでせう。」

「お父様がちやんこ下さるから大丈夫よ。」

「お父様はさきから持つていらつしやるの。」

「お父様毎日會社で御仕事なさるでせう。それは皆日本の國の御役に立つてゐるの。それで日本の御國から頂くのよ。」

「それだつて、さのお家のお父様もさうなら、やつぱりなくなるでせう。」

「日本以外の國で、物を賣つたり買つたりするの。それでたくさん御金が入るから大丈夫なのよ。」

追求愈々急なるに、そこで話題を轉換させたが、いたる應答ぶりを思ひ出す。それにつけても女の子の方は實際的である。

### 光榮の分配

十月二十一日女高師に皇太后陛下の行啓を仰ぐ。この日の喜びをものした章の手紙を左に。

キヨウ、コウタイゴウヘイカガ、アカイオジドウシヤデ

イラッシャイマシタ。オンナハアカイオクルマナンデスカ。ボクワビカリビカリノオユウギヲシマシタ。

後日御下賜の御菓子を拜受した。永地畫伯筆の父の畫像の前に、附屬小學一年の姉と二人で拜受の御菓子を出しあつて供へてゐる姿を見た時、固くなつてもよいから、このまゝロンドンへ送らうかと思つたほぎであつた。

### 姉 味 方

或日臺所の方で久仁子の泣聲がする。續いて章が険しい語調で、

「お母様にいひつけてやるから。」

と飛んでくる。顔を眞赤にして眼に涙さへ浮べて正に憤怒の相、

「お母様、いちやがお姉様を縁の下に突落したの、僕力一ばいぶつてやつた。もつちぶつてこようか。」

「まあお待ちなさい。」

と引返す章を追つて、臺所へ出た時には、又二つ三つ章の拳が飛ぶ。不用意にあけておいた揚板の下に、突然駈けて來た久仁子が落ちこんだまのこ。下女が突落したのでな

いこを説明しても、なか／＼自論を撤回しない。平生手荒いこを見かけないのに、この時ばかりは全くの姉味方であつた。「兄弟垣に闘ぐも外その侮を禦ぐ」氣持が、父の留守中は殊に濃くなつたやうである。

### 初 夢

昭和十二年が明けた元日、章は起きるなり私へ夢の話をしてくれた。

「お父様が御門の處にいらつしやつたから、一緒に伴れていつてさいふを、さん／＼行つておしまひになるので一生懸命に追つかけたの、終にくたびれて、いちやにおんぶして又追ひかけたら、もうごにもいらつしやらなかつた。僕泣いちやつた。」

さいふ。正に初夢である。ところが不思議に久仁子も父の夢を見てゐた。

「あらお姉様もよ。でもお姉様のは、オリムピックのよ。

たくさんの見物人の前で久仁子マラソンをして、一等になつたの。そしたら皆がお人形やらキャラメルやらを下さつて持てなくなつたの。その中にテンプルちゃんのお人形あ

るんでせう。嬉しくつて、お父様にお約束しておいたお土産のテンブルちゃんもう要りませんと申上げようとしたら眼が覺めたの。」

一人は悲劇で終り一人は喜劇で終つてゐる。何と云ふ偶然の一致であらう。話のやうな話である。眼を細くして話し合つてゐる子供の顔が、この時ばかりは西洋の名畫のやうに美しく見えた。

### 國際電話

三月六日地久節の當日、それは幸にミつて忘れられぬ國際電話交換の日でもあつた。夜七時ロンドンから電話があるといふので、會社へ子供を伴れて出かける。道々、

「今日御電話でお父様が『章』とおつしやつたら、何と申上げるの。」

「ミきくミ、小首を傾げたのち

「『僕タキシードでできましたよ。』といふの。」

「それから。」

「早く歸つて下さいつて。」

「それではその二つをはつきり大きい聲でおつしやいなね」

定刻の七時に少々遅れて父の聲が傳はつてきた。久仁子を出し、續いて章を出す。

「お父様あ……。」

さすがに胸がつまるのか、ミぎれ／＼漸くいひ果す。私が繰返して、もう一度その言葉通りに傳へる。それが海山を越えてきた聲音かと思ふ程はつきり聞こえるので、まるで襖を隔てた對面のやうである。

「お父様何とおつしやつたの」

「よし／＼つて。さあお父様のミころへゆかうよ。」

「今の電話はロンドンからかゝつたのよ。行かれるもんですか。」

ミ姉に宥められても、私の手を引いて外へ出ようとする。

父の肉聲を聞いて急に押へてゐた戀しさが募るのも無理ならぬこと。歸りの自動車の中で又、

「今度は御父様の處へ行くんでせう。」

を繰返す章に、私は却つて罪なことをしたやうな後悔の念を禁じ得なかつた。

一時ひんぱんに喜び極まり果てければ

後の空虚うつろはいふべくもあらず

### 戸締はよいか

犬養健氏宅へ盗賊が入つて、女子學習院學生の御姉様が落ちついて退去させたことが夕刊に出たので、夕食後の話題になつた。それから二三日間、あの應揚な章の口から必ず寝る前に「戸締はよいか。」の質問を發せられた。さては萬一の場合の撃退工作にまで及ぶ。

「僕の電氣機關車皆やつたら歸るだらうか。」

「里の弟でも夜泊りにきて貰はうか。」と祕かに決するころあつたが、そのうちに忘れてくれた。うっかりしたことは話されないと思つた。

### 海外ニュース

五月には戴冠式の記事が紙面を賑はせた。ロンドン在留邦人が、日の丸國旗を振りく、秩父宮兩殿下奉迎の寫眞などは、その細かい顔と顔との間から、父を探し出してくれさいふのである。

ツェツペリンの遭難記事が出る。大西洋横斷を地圖の上

で示す、かねて父がこの海を渡つてアメリカへゆく話してあるので「お父様わ。」といふ。「まだロンドンだから大丈夫よ。それに日本人一人もなしとあるからよかつたわね。」といふに強く頷く。去夏支那成都事件が報ぜられた時、「お父様もう支那をお渡りになつた後か」を確めたのこ好一對の話である。

### 父への音信

父の歸朝が延びるこゝになつたので、最近章は父への手紙を書くこゝが日課のやうになつた。出發當時は辛うじて「ハヤクカヘツテキテ、オミヤゲナンデスカ。」の二條件を緩るのみであつたが、最近を書く範圍が擴大されて大部面白いものが出来てきた。この可憐な文字を犠牲にしても、所用のためには踏み止まらねばならぬ主人の苦衷は察するに餘りある。これらの手紙は、真情の吐露を第一にしたいから、父の判讀出来る範圍に註を加へ、ふ可解な所は「何ぞ讀むの」ときいても見るが、そのまゝに出してしまふこともある。本人にも分らぬこゝがある。太字は抜字、假名遣などは片言のまゝである。以下原文のまゝを……。

(1) オトウサマ、アキニナラナキヤ、カエラナインデスカ。  
マダトハオソイデスネ。オミヤゲハナンデスカ。ボクハ  
オトウサマガイナイトサビシイヨ。イケノクミニナツタ  
ノニ、ウソツキデスネ。

(2) オトウサマダレガイチバンエラインデスカ(この頃ス  
クラップブックに「エライ人」いふ標準で貼拔をしてゐ  
るから、この疑問が浮んだのであらう。これは姉の皇族  
畫帖作製の影響である。)オトウサマワゴデカツテミンナ

降参

コウサンシタノデスカ(私へのベレンガリア船上通信を

讀聞かせた内容からかくいふ)コノトケイワ(幼稚園の作

業で作つたものを封入する)マンナカノカナクノトコロ、  
金具

ソレマワセバハリガウゴクノデス。イマヤオヤオツ  
クツテイマス(幼稚園作業)オトウサマニミセタイ。

(3) オトウサマノトコロニンギヨウダイジニシテイルデシ  
ヨ(アメリカから學校へ人形を寄贈してきた時、人形を  
迎へる式があり、式後先生がかく仰せられたいふ。ア  
メリカミいふので心引かれたのであらう。)オトウサマオ  
テガミアリガトウ。ボクワオトウサマガイナキヤサビシ

イヨ。オトウサマノトコロデハニギヤカデスカ。ボクノ  
トコロデハウルサクテウルサクテタマリマセン。ミンナ  
ガオホサワギデ(こゝまで讀んだら家のこゝろいふ思ったが、  
近所の子供のこゝろになる)ボクノウチノオゲンカンノト  
コロエ、ロウセキデカイチヤツテシヨウガアリマセン。  
ソウシテブランココワシテシヨウガアリマセン。ソウ  
シテボクニイシオブツケテイヂメタリシテ、シヨウガア  
リマセン。

(4) ボクノトコロオザシキノシヨウヂキレイニナリマシ  
タ。オトウサマオハナレノトコロニタナガデキマシタヨ。  
オトウサマガカヘツテキタラヨロコブデシヨ(最近ロ  
ン  
ドンから書籍が届いたので、それを並べる棚いふ思つたら  
しいが、實は私の本棚であつた)

(5) オトウサマオフロカイテ、イイリツバナオフロニナリ  
マシタ。ソウシテオトウサマハイレルオフロダカラ、オ  
トウサマハヤクカヘツテキテクダサイ。オミヤゲモツテ  
キテネ。オトウサマガカヘツテキテ、マタアソビマシヨ  
ウネ。イイ、ワカリマシタカ、サヨウナラ。

(6) オトウサマセイコチヤンハイタヅラデ、レイコチヤンハシンブントルノガスキダシ(受信函に手紙を取りにゆく役目)ボクハブランココギノセンシユウデス。ネエチヤンハオトモダチトアソンデ、ベンキョウハヌカシテ

イツチャウンデス。コレデミンナノイタヅラハワカツタデシヨ。ソウシテセイコチヤンハハイノガトツテモハヤクテゴフジヨウマデイツチャツテカナイマセン(廊下をきこまでも這つていつて手洗場までいつてしまふこ

ミ)セイコチヤンハイスデタツタモシラレルンデス。セイコチヤンハエラクナツタデシヨ。セイコチヤンハオリコウデシヨ。

物置

(7) オトウサマウチノモノキノトコロニオオキイネココカラ、コドモノネコガウマレタンデスオトウサマガツコウスندگانラ、サメジマノオウチニシコシスルカラ、イツテキタラオムカヒニイカカラ。(返子で鮫島の隣を借りることにきめたので歸つてきたらお迎へにゆく頃になるさいひきかせてあるので)

セイコチヤンハオリコウニナツテキルデシヨ。サメジマ

ノウチニモイカレルシ、オトマリモサレルヨウニナツテ。オトウサマノトコロシツテイマス。ニユウヨウクツテイフトコロニイルンデシヨ。ミンナゲンキニシテイイルデシヨ。ヨロシクネガヒマス。

(8) オトウサマネコハニダテイツチャイマシタ。オトウサマカヘツテキタラ、オミヤゲキカンシヤオカツテキテ、デンゲンシヤカラキカンシヤモラツタンデス。オトモダチニシツケイシテオトウサマカヘツテキテヨ(章の生まれないうつこゝ昔、お父様がニューヨークにいらつしやつた時のお友達が、たくさんいらつしやるさいふ話をしたので)オトウサマニオテガミダシタノニ、オトウサマモテガミダサナキヤアヅルイヨ。ボクドンドンダシタノニ、ネエチヤン1ツカイモ、ダサナイデ、テガミダシタノコレダケデシヨ、サヨウナラ。

なほ最近の主人への私信の一端を掲げて、章の近況にかへよう。



久仁子の學校の作業が進むにつれて、机を並べてゐる草のみようみまねも大部進んできました。併し久仁子に見られなかつた一面が、段々この頃芽を出してきたやうに思ひます。それは機械類への興味です。時計の古いのや、おもちゃをぎん／＼解體してゆくのです。螺釘をさるこまが面白くて、この間著音機が廻らなくなつたら、早速釘をはづし始めました。二輪車にいつのまにか懐中電燈を裝置して得々然と走つてゐます。この間床屋の前を通りましたら、床屋の看板(赤、青の線が廻つてゐる)のスイッチを切つてしまつたので、あつ／＼思つてゐるこま、又つけてニコニコ追ひかけて來ました。こてもいたつらではらく／＼します。浩さんの十六ミリの映寫には切りに助手の役を勤めてゐました。電気機關車を廣げられるこま八疊の間に足の踏場もありません。疊に高低があるのは、雜誌なごをあてがつて、レールの迂りをよくしたり機の足を跨がせて、トンネルを形がつてゐます。轉轍機の信號も獨りで取りはづしてゐます。省線電車にのるこま一番先の車に乗つて、運轉手の所作を一心に見てゐます。外の信號にも注意してゐるやうです。そ

のうちに何かの結論に達するのでせう。

もう一つは生物への興味です。併しこれは今の所集中欲に止るので、取つてさうするこまいふのではありません。み／＼すやかたつむりや蟲類をこまで探し出すのか集めてきます。この間古いバスケットを何氣なく開けたら、たくさんバッタが飛び出して、舌切雀のおばあさんもかくやと思はれました。子供の心は海綿のやうにくん／＼新しいものを吸収してゆきます。子供のほん／＼の相手になるこまは、大學の先生以上にむづかしいこまです。

倉橋先生の最近の御著書「育ての心」を拜見してゐます。「子供を育てるのには、強要があつてはならぬ、作爲があつてはならぬ。こまでも自ら育たうとする偉大な自然の力を敬重し、愛惜してゆかねばならぬ」を仰つてゐます。しかしそれには細心の觀察を根強い忍耐を、それらを買く愛の力がなければ出來ないこまでせうね。あなたの少々甘い滋養糖を、私の少々辛い榮養劑(先生からごらんになれば不消化劑かもしれない)を調和して、先生の御言葉を基準に、一日も早く兩親の揃つた家庭の幸福を子供等に注ぎ得



## 夏休みの講習について

今年もはや夏休みを迎へ皆様いろく御豫定の多い事存じます。お知らせ致しました様に文部省主催の保育講習が東京に於て開催されます。又八月二日より第七回世界教育會議の開かれます事も御存じの通りでございます。私どもこの際一そう勉強せずにはゐられない様な気がいたします。さうぞ奮つてこの講習に御参加下さいませ。

淡路講師が幼児發達研究の權威でいらつしやいます事は今更こゝに申上げる迄もない事でございますが、長年の御研究を實際的に平易に御説明下さいます由、御期待いたゞき度く存じます。尙このお講義には日本幼稚園協會編フレール館發行の「幼児發達検査」をおもちになりますのが御便利存じます。まだお求めなき方は御用意をおすゝめ致します。

倉橋講師のいつもの滋味豊かなお話が又たくさん伺へると思ひます。今から張り切らずに居られません。又及川講師は例年にも増して豊富な本當に幼児に即した手技を數多く準備せられてをります。鋏、小刀、糊なごの御準備をお忘れなき様御注意いたします。長年の御經驗をもこなさいました保育の實際についての新庄講師のお話は又私共に最も直接にぎんなにありがたいこゝか存じます。

國民保健問題が盛に論ぜられてをります昨今、野澤講師のお講義は時宜を得た意義深いもの存じます。このお話によつて大いに反省し尙將來の幼児保健についてのよりよきことを得度い存じます。

七月二十四日より四日間午後、日本幼稚園協會主催の遊戯講習がござります。之も例年通り戸倉講師がいつもに増した材料を手をこつてお教へ下さいます。子供達と一緒に踊れる遊戯を御一緒にいたさうではござりませんか。梅雨の長かつた今年のお暑さは又格別であらうこのころではござりますが、暑さを凌いでの皆様のお出でをお待ちしてをります。

講習係

## 或る日の反省

附屬幼稚園

菊池ふじの

新入の子供達を迎へたのが遂こないだだと思つてゐるのに、早やもう第一學期も終らうと思つてゐる。今更の様に心改まる氣持がして來て、それだけ入園當時と變つて來たか

み、事毎に前と比べて見やうとするこの頃である。繪のお帳面を開いて見る。缺仕事のお帳面を開いて見る、ぬりゑ帳を開いて見る。それを見ても、誰のを見ても、ほんの少しづつではあるが、上達と言はふか、まことに言はうか、細かさと言はふかそう言つた渾然とした或進歩が認められて來てる。やはり、教育と言ふものは、せつかに焦つて見た所で、お藥が效く様には速效はないものだが、自然に、時が、こちらの努力と相俟つて、効果をじりじり見現はしてくるものだなと又つくづく感じ入つて見るのである。

こんなわけで、遊戯にも唱歌にも、或まことに、落ちつきが出來て、大體はこちらの思ふ様になりかけて來てゐるのである。

つひ三四日前の事であつた。唱歌を唱歌として、出來るだけ立派に歌ふ様にしたいと思つて、いつもの様に席を作つて幼兒達みんなを席に就けた。所々に實習生の方達もは入つた。實習科の方は、團體で何かをする時は、自己統制の力が弱く、ぢきあきて來るか、初めから注意散漫で集中が出來ず、そればかりか、その餘波を他の子供にも及ぼして邪魔をし勝ちな幼兒の、隣の席に就いてもらふのが常である。

この日も實習科生のK先生は、勇ちやんと言ふ子の傍の席に就いた。

勇ちゃんは一寸變つた子供である。まあ、ざつこいんな子供だつた。

一寸もぢつこしてはゐない。いつも、小刻みな足ざりでちよこ／＼と駆けて歩く。ぎつしり／＼と歩くこゝろはない。遊戯の時、ピアノに合せて／＼と言ふ／＼、両手が／＼と飛んでいく位に／＼と、バタ／＼と大きな足音を立て、／＼と歩く、リズムには／＼もあはない。

お話をきいてゐても、仕事をしてゐても、時々誠に頓狂な大聲を出してキャーツと言ふ。

人にしつこく／＼つきまゝふ。他の兒と話す時でも、又何か聞く時でも、その子の頸に自分の手を廻して下から覗き込む様な恰好をして、大きな、／＼でも大きな聲で話す。誰にでも終始つき當つたり、顔／＼顔／＼すり合ふ位に近づけてものを言つたりする。

廊下を歩く時は、いや廊下を歩く時ばかりでなく、外で遊んでゐる時でも、又はお室で含嗽をしに流元までゆく時でも、極めて大きな頓狂な聲で／＼／＼と言つて電車になつたつもりで歩く。そして途中で子供に出會へば、／＼

ん／＼突き當り、實習科の方達に會へば、自分の知る先生、知らぬ先生に拘はらず、いかに／＼なれ／＼しく、はたから見る／＼、幼稚園で關係は／＼／＼も、家庭同志がよく知り合つて／＼／＼のか／＼思はれる程になれ／＼しく、若い先生方の前に戯れる。若い先生方も思ひがけぬ子から、いかに／＼も人なつこく慕はれた愛らしさに、これもまた／＼こやかに二言三言言交はして過ぎ去る様子なのに、／＼／＼から見て居た私、遂、／＼このお子さん／＼お知り合ひなの。／＼／＼聞いて見た事が一／＼ならずあるのである。

それから／＼ある。普通の子なら、「林の組お辨當！林の組お辨當！」と言ふ聲でも聞え様ものなら、何をさておいても泥手を拭き／＼は入つて来るのが普通であるのに、この勇ちゃんに限つては、／＼／＼したつて這入つて来ない。ナン／＼／＼にへたばりついでゐたり、お砂場に一人残つてゐたり、大きい組の遊ぶのに見入つてゐたりして／＼／＼して／＼／＼入つて来やう／＼はしない。私が行つて、お手々を引つ張つて来るか、力のあり／＼／＼な子供が行つて連れて来なければ来ないのである。お辨當の時ばかりでなく、お仕事で這入

らうとする時も、又はお歸りの時でもそう。凡ての出入に誠手間取れて、他の子供までが勇ちやんを、みんな一緒にする爲に奔走する有様なのである。

勇ちやんはまた泣かない子供である。先日も、みんなのお家ごつこに「入れてね」言はずに黙つて這入つたのが悪いと言ふわけで、そこに敷いてあつた塵をみんなで勇ちやんに被せていぢめてゐた。いつもベソばかりかいて先生の袖にぶら下つて歩いてる意久地なしの悟ちやんまでが、威張つてやるのはこの時、こでも思ふのであらうか、勇ちやんの髪の毛を引つ張る。他の子供は體中のそちこちを叩くと言つたわけで、みんなが寄つてたかつていぢめてゐるのに、泣かないで、ケロリとした顔をしてゐる。みんなの仕打がひきくなつた所で初めて、

「先生！ これ！ 先生これ！」と極めて悠々私に向つて悲鳴をあげると言ふ有様。

お砂場等で遊んでゐる時も、勇ちやんの使つて居る積木を他の子供が取つて行つても、普通の子供なら直ぐむきになつて一戦交するところを、勇ちやんは、この時もまた

「先生、先生、積木取つて行つた！」  
と悠々悲鳴を揚げるだけなのである。

こんなにされても勇ちやんはみんなと一緒に遊び度いのである。或日も、勇ちやんは線路を破すからいや！ トンネルを潰すからいや！、言つてみんなに排斥されるのを、そんな事は決してしないと言ふ約束をして、さうにかこむにか頼みこんで砂場遊びに入れて貰つた。勇ちやんは威勢よく、砂場の中を、プー／＼と言ひながら積木の電車を走らして駆け廻つてゐた。やがての事、そつちからもこつちからも苦情が出て來た。

「先生、勇ちやん僕の作つた線路、踏み壞したの」

「先生、勇ちやん、僕の車庫の電車持つて行つたの」

「勇ちやん、僕の川を潰したの」

勇ちやんにはまた非常に神経質な一面がある。

勇ちやんはお辨當の時お湯を呑まない。「お湯がいやならお水を上げませう」と言つて見るけれども、頭をふつて注いで貰ふことを拒絶する。バスケットの中には瀬戸引きの

湯呑みがちんこは入つてゐるのである。二三日しても、四五日経つてもちんこ呑まない。元來なら、子供は水を欲しがるものなのに、ちんこを抱いて、或る日、お附添の方に

「勇ちゃんはどうしてお湯を召し上らないのでせう。」

ちんこ伺つた。お附添の方は、「やはりいたゞきませんか」言はれて、實はあの子は大變に神経質で、家に居りましても瀬戸引きのお茶碗では、金盃の様でいやだと言つて、決して呑まないのをごさいます。ちんこ語られた。「それではちんこも構ひませんから、さうか好きなお茶碗を持たせて上げて下さい」ちんこ言つたのであつたが、その後、勇ちゃんは、深い瀬戸のお湯呑みを持つて來る。

「お湯もいたゞかなければ大きくなりませんよ」

ちんこ言つて注いであげる、この頃は毎日呑む様になつた。神経質だと言ふ證據が一つある。勇ちゃんはお便所に行かなくて困る。お家でもそうなのださうであるが、構はないでおけば一日おしつこをしないで歸る。お附添の方に伺つたり、さういふものかお便所へは行きたがらなくて困

る、この事だつた。二三次ばかり、我慢し切れなくて、大塚の驛まで行つてもらしたり、向ふのお家の近くの驛でもらしたりするさうである。こんな事をきいたので、時々勇ちゃんをお便所に誘ふ。けれど誘つた位のお手柔かさでは、聞こえたのか聞こえぬのか分らない様子をしてゐる。そこでお手々を引つ張つて無理やりに連れて行く、お便所まで行つて「さあしていらつしやい」

ちんこ言つてお手々を離す、其處で突立つて私の顔をニヤミ見て動かない。

「早くしていらつしやい」

ちんこ言けれぎ動かない。で又出掛けて行つて用意をして上げて、「早く」ちんこ促す。自分の場所ちんこきめてゐるのが空いてゐなければ決して用は便じないのである。

勇ちゃんの身の上嘯があまりに長くなるがもう一面の話をおさせて頂かう。そして私はこの方面に多大の、よき希望を持つのである。

勇ちゃんは電車、自動車等の乗物、庭の草花等については、他の子供の及ばない、旺盛な興味、知識慾を持つ。

電車、自動車等を好んで描くのであるが、描きながら獨り言もつかず、私にさもつかず語られる話をきいてゐる。私共等及ばない知識を持つて居り、疑問を持つのである。

草花についても、非常に興味を持つてゐる。毎朝の水やりは喜んでする。そして、そこに生えてゐる小さな雑草をも見落さずに、「これ何の花ミ聞くのである。夏コスモスが一輪咲いてゐた所、「先生コスモスが咲いたわね」言ひ、蟲取なでしこだの、デージードの、鳳仙花だのミ、咲いてゐるお花の名をすらく言ふのであるが、大抵のお花の名は知つてゐる。そしてお花を欲しがらる。雑草は取つても構はないと言ふ。

「これも取つていゝ？これも取つていゝ？」

ミ言つて、澤山お手々に握つて、お家へ着いても大事にしてコップに挿しておく言ふ。

誠にやさしい、又極めて小心な一面も見られるのである。

扱て、話は、唱歌をしようとしたあその場面にもさらう。

K先生の隣が勇ちやん、勇ちやんのお隣りには小百合やんミ云ふ女の子が座つた。勇ちやんは、例によつて、小百合やんの頸に右手をかけて、物言ふでもなく、小百合やんの顔を下から覗く様な様子をして顔を近寄せる。小百合やんは明らかに嫌だミ云ふ表情をして勇ちやんの手を拂ひ除け様にするけれど、手を離さない。小百合やんは少しでも離れ様にして席を動かうミするけれど、勇ちやんは小百合やんの動いただけついで行つて、しつこくからまる。K先生は先刻から、勇ちやんにも、みんなミ一緒に歌を歌はせ様みなさつて、いろ／＼にたしなめて居られるけれど一向に聞かない。K先生はたまり兼ねて遂に、小百合やんを後ろの空いてる椅子に移した。するミ勇ちやんはしつこくもまた小百合やんの後をついて行つて、小百合やんからみつく。小百合やんは、みんなミ一緒に歌はふミするけれどさうしても勇ちやんに邪魔されて歌へない。勇ちやんはんで唱歌に氣は向いてゐない。K先生も困り抜いていらつしやる。壇の上から、この様子を見てゐた私は、思はず腹が立つた。常々、あれほぎみんな



に嫌はれるからと言つて、人にしつこくからまらない様に  
またしなめておいたのに。それよりも、あんなに小百合ちや  
んが歌を歌はふさしてゐるのにそれをさせないで、又K先  
生がさつきからあれ程真摯に、みんなと一緒にまたしなめ  
て居られるのにと思ふさ、思はずカッター腹が立つたのであ  
る。私はあこの子を實習科の先生方に願つて、勇ちやんを  
抱つこして、誰も居ない應接室には入つた。こゝで勇ちや  
んを私の前に立たせ、勇ちやんの両手をしつかり握つて、  
勇ちやんの顔をじつと見た。

「勇ちやん！さうしてあんなにしつこくするの！小百合  
ちやんがあんなに嫌がつてゐるたじやありませんか」

「憤りをそのまゝ表はして言ふさ、勇ちやんは、

「先生、僕こんな立派にしてゐるじやありませんか」

と言ふ。

「今は立派だけさ、さつきお唱歌の時、小百合ちやんにお  
いたをしましたよ」

「私も負けないで言ふ。するさ勇ちやんは

「先生、さつき砂場で遊んでゐたら、格ちやんが僕の電車

の積木取つて行つたよ」

私「そのお話は今でなく、あさで聞きませう」

「頸を振つて受けつけない。」

「先生、こないだ、僕がブランコに乗つてゐたら靖也ちや

んが取りかへしたよ」

私「その話も後で」言つて聞かない。

「先生、僕こんなにお行儀よくしてゐるのにさうしておこ  
るの？」

「言ふ。私は暫く黙つてゐて、私の憤りを感じて貰はう  
しました。勇ちやんも今は黙つて、私に手を握られたまゝで  
立つてゐる。暫くしてから私は、

「勇ちやん、もう嫌ね、あんなにしつこく他の人に邪魔す  
るの嫌よ、分つた？ これからしない？」

「聞いた。それから勇ちやんの手を引いて外庭に出て遊  
んだ。」

私は、勇ちやんをほんまに怒つたりして、果して愛して  
ゐる言へるだらうかと思つた時、淋しさがふみ胸をかす

めた。この組を受持つた時に、

「私は、林の組のお母様よ」

ミ子供にもはつきり言ひ、自分でも母の心で誓つてゐたのに、ミ一寸心を暗くした事であつたが、一步退いて、これがほんきに自分の子供であつたらうかと思つたらうかと思つて見て、やはり自分はこうしたらう、もつこひびく叱つたらうと思つて又安堵した。

私は勇ちやんのこのしつこさは、人に嫌がられるから言つて、いつもたしなめてはゐるのであるが、扱て、勇ちやんは變つて居るには居るが、何處が悪いのだらうか考へて見ても、別に悪い所があるとは思へない。唯、何をしようとしても皆ミ一緒に行動して呉れないので、協同生活ミ云ふ事にはいけないけれども、統御ミ云ふ事務上の事で手聞取れるだけの事で、本質的に悪いとは思へない。大きい組になつても今の勇ちやんの様である人は、今までの永い間まだ見た事がないから、勇ちやんもやがては治るだらうか考へ直して、みんながお話を聴く時でも、お辨當の時でもお歸りの時でも、勇ちやんのするまゝにして置いて見様

も考へて見た。併し之には、他の子供が承知しない。勇ちやんがまだは入つて来ないミ、「勇ちやんは、は入つて来ませんよ」、ミ注進に来る。さては大勢で押しかけて、勇ちやんを連れて来やうとする。そして、素直に来やうさしないミ、みんなは、髪の毛を引つ張つたり、お顔を引つ搔いたりの亂暴を働く。これを抑へて、勇ちやんは構はないで置きませう、ミ言つては、勇ちやんを異端者扱ひにする様でいけないしと思つて、またみんなミ一緒に行動させる様にしやうミ宗旨換へをした。

お附添の方は、勇ちやんの、この皆ミ行動を共にしないミ云ふ事を氣にせられてゐる様子がちら／＼見られるので、この事のあつた翌日、幼稚園での勇ちやんの様子を、逐一お話した。御家庭では、勇ちやんのしつこいのは、人を可愛がる餘りだとか、人ミ一緒に行動しないのは、自分に忠實に生きるからだとか云ふ理窟は一切なしに、お氣の毒な程素直に受け入れられて、

「皆さんミ一緒にしないのは、それはいけない」ミ仰言つて、家中でもつてよく話して聞かせ、もし皆さんミ一緒

に出来ない様なら、幼稚園に行くのは止ませう、と言はれたとか、するも勇ちゃんはどうしても幼稚園に行き度いで、之からは決してしないも約束をしたも云ふ事である。こんなにみんなにいちめられても、そんなに幼稚園に來たいのかと思ふも、私はほろりとした。そしてどうかして、今までの間に他の子供の脳裡に植ゑつけられた、勇ちゃんへの評價も云つた様のを打破すべく努力しなければならぬと思つた。

この翌日、勇ちゃんは別人かと思ふ程、皆と一緒に入つて來てお話も聞けば仕事もする、遊戯もする。プーくも云ふ頓狂な聲はこの日は聞えなかつた。その翌日は少し緩んで、凡ての行動がいくらか前の様子にもぎり氣味であつた。その翌日はもつとゆるんだ、でもその都度注意するも、思出した、も云ふ様な表情をして止めるのである。

教育も言ふ事は、學校も家庭が協力してやれば効果が現はれるものである、も云ふ、世の中には珍腐な筈の事柄が、私には、今新しい生きた事實として迫つてゐる。こうして家庭も學校も一致協力して、たしなめつゝ習慣性にまで導

けば、かなりの訓練効果は揚げられるものである事を、この頃、この他の、二三の出來事でも確信つけられて居る。

—— 十二年七月 ——

(七十九頁より)

夜のうちに汚いものを踏んつけたり、その上に寝ころがつたりして汚れてゐるからです。それから朝ご飯をやります。夜も點呼がすんで寝る前に、も一度既に行つてやります。かうして騎兵の兵隊さんの一日は、お馬と一緒に起き、お馬と一緒に暮らす一日なのです。かうしてしよつちゆうと一緒に居て、仲好しの友達になつてゐてこそ、戰場へ出征して人馬を一體になつて活動するこゝが出来たのです。

この次はもつと面白いろくな馬のお話して上げませう。

# お馬の話

—— 幼児に読み聞かせる爲に ——

東京高等師範学校講師  
陸軍騎兵中尉

白根孝之

七〇

## 一、兵隊さんとお馬

お馬ご言へば、皆さんは、長いサーベルをつつて、拍車、金ボタン、肩章をキラ／＼させた騎兵の兵隊さんの、勇ましい姿を思ひ浮べるでせう。けれども、兵隊さんと一緒にお國のために働らいて居る馬は、騎兵のお馬ばかりではありません。お馬は砲兵や、輜重兵や、工兵の兵隊さんにまつても、なくてはならない大切なお友達なのです。砲兵といふのは大きな大砲をもつて、遠くの方からドカーン／＼と敵を打つて、味方の歩兵や、騎兵や、工兵を助ける兵隊さんで、その大砲を引張つて行くのは大ていお馬です。大砲の中にも大きなや小さながありますが、大きなのは車へ積んで、四頭も六頭ものお馬がエンヤラ／＼引張つて

行きます。けれどもそんな大きな大砲は、廣い道の通つて居るころか、平たい原ツばしか通れません。道のないお山や、凸凹のひざいころで戦争をする時には、小さい大砲をお馬に脊負はせてもつて行きます。又大砲の弾は何十貫もする重いのがあります。これも車に積んだり、脊負つたりしてお馬が運んでくれます。

輜重兵といふのは、澤山の兵隊さんが戦争をする時に、お腹がひもじくならないやうに、後からお辨當を運んでやつたり、鐵砲や大砲の弾が足りなくなるとやうに届けてやる兵隊さんです。「腹がへつては戦いくさが出来ない」昔から言つて居りますが、戦争や演習の時には、兵隊さんは汗にまみれ、泥いんこになつて、クタ／＼にくたびれるほぎに

飛び廻りますから、こてもお腹なごがへるのです。皆さんも戦争ごっこをした後なごでは、きつこお母さんにおやつをねだるでせう。けれども兵隊さんは鐵砲だまか、重い背囊せいのうだまか、彈だまか、又近頃ではガス・マスクだまか、戦争に要るものを一杯からだに着けて居ますから、何日分ものお辨當なごはこても持つて居れないのです。又鐵砲や大砲の彈にしても、一ぺん戦争をしてドカン／＼、ボン／＼と打つて失へば、直ぐ無くなります。そこでさうしたものを屈けてやるのが輜重兵の兵隊さんで、やつぱりお馬の力を藉ります。

工兵くへいごいふのは、皆さんがよく御存知の爆彈三勇士、これは工兵の兵隊さんです。河を渡つて敵を攻めて行く時なご、浅い河だつたら、歩兵の兵隊さんはドン／＼飛び込んで渡りますが深い河は、重い荷物を持つてはこても泳げるものではありません。そんな時に工兵は直ぐさま橋を架けて、他の兵隊さんを渡してやるのです。又敵が攻めて來られないやうに味方の陣地の前へ鐵條網を張つたり、あべこべに、敵の陣地の前の鐵條網をブツ／＼に切つて、味方を

攻めて行き易いやうにしてやるのも工兵です。それにはソーツミ敵陣地の前に忍んで行つて、丈夫な鉄で針鋼かばを断ち切るこもありませんが、鐵條網が頑丈に出來て居て、容易に切れないやうな場合には、爆彈でやるのです。三勇士が自分達の體からだもろ共、敵の鐵條網を粉碎した、忠義な、勇ましい話は、皆さんよく御存知ですね。それはごも角、かうした橋を架ける材料や、爆藥なごの重いものを運ぶのは矢張りお馬です。

その他、歩兵でも偉い將校はお馬に乗つて指揮しますし、機關銃だまか、歩兵砲——これは歩兵が持つて居て、敵の戰車だまか、機關銃だまかをやつつける爲めの小さい大砲です——なごは、やはりお馬が脊中に載せて行きます。けれどもなんご云つても一番勇ましいのは騎兵ですね。

數千の騎兵が廣い野原一杯にひろがつて、氷のやうな刃を抜きつれ、ワーツミばかり敵に襲ひかゝる有様は、全く皆さんに一度見せてあげたい。全く太平洋の怒濤のやうです。その他、騎兵は味方のすーつご先の方へ出て、敵の有様を探つたり、又、お使になつて大事な命令や報告を、

遠方に届けたりするのが任務です。

これでお馬さんいふものが、兵隊さんにまつて、みんなに大切なお友達であるか、わかたせう。皆さんの中には、なんだいお馬なんか、今では、飛行機や自動車が発達してゐるから、ヨチ／＼お馬でなんかやつてた日には、戦争なんか出来るもんか、ミお馬を軽蔑する人があるかも知れませんが、——誰です、さうだ／＼なんて相槌をうつのは、さうして／＼。なる程飛行機はブーンミばかりに、一時間に百キロも二百キロも飛んで行つて、高い空の上を裕々ミ廻りながら、上から見下して偵察するこゝが出来ます。その點ではミてもお馬に乗つた騎兵なんか、逆立ちしてもかないつこありません。けれども、皆さんはまだ飛行機に乗つたこゝはないでせうが、飛行機の上からは山も野原もみんな一様に低いこゝろに見えて、そんなにはつきりミ地上のものかわかるものではありません。敵が深い森の中にも入つてゐたら、勿論わかりつこありません。それに近頃は、皆さんの知つてゐるやうに、戦車や装甲自動車は芽蟲のやうな偽装ミいふものをやつて、高い空の上からでは草や土

ミちよつミ見わけがつかないやうな工夫をしてゐます。兵隊さんもさうです。帽子や背囊の上に被つてゐる網がそれです。で、こまかい地形や敵情の偵察——例へば、この河は歩兵が渡れるかぎうか、この道は大砲の車が通れるかぎうか、あそこの陣地にはどんな仕掛けがしてあるか、あそこの森の中には敵がミの位居るか、なぎ／＼いふこゝは、さうしても騎兵の斥候の力を借りねば、わからないのです。又、自動車にしても、大きな道の通つてないこゝろではなんにもならないでせう。そればかりではない、タイヤがパンクしたり、エンジンに故障が出来たり、又敵が逃げるときに道を壊したり、大きな障碍物を置いたりした場合に、切角の自動車もエンコして失はねばなりません。そこへ行くミお馬は平氣なものです。山でも河でも、こゝろばぬやうに、ですからね。

そこで兵隊さんにまつて、これほゞ大切なお馬、皆さんがみんな好いて下さるお馬に就いて、おぢさんの知つてゐるだけのこゝをお話して上げませう。ミ言つても、おぢさんは騎兵ですから、ほかの兵隊さんのお馬のこゝはあまり

知りません。主に騎兵の兵隊さんと一緒に居るお馬についてです。けれど、なんと言つても軍隊のお馬の中では騎兵のお馬が一番はしつこくつて、一番お伶俐で——お馬でも馬鹿ばかりではありませんよ——そして一番きれいで、一番若いのです。

## 二、お馬のけいこ

先づお馬のけいこから始めませう。皆さんは、道で騎兵の兵隊さんが、何人も列を作つて、バック／＼／＼／＼走つて居るのを見たことがありません。又、高い障得を、首を伸ばしてヤツミばかりに飛び越えてゐる兵隊さんの勇ましい寫眞や繪を見て、すごいなーと思つたことがありません。そして僕も乗つて見たいなと思ふでせう。若し今おぢさんが、馬に乗りたいた人は手を舉げなさいと言へば、元氣な皆さんは先きを争つて皆手を舉げるでせう。けれど、乗つてごらんなさい。直ぐに落ちこちますから。

馬つて、始めからうまく乗れるものではありません。第一そばへ行くに、怖いですよ。よく馴らされたお馬はなかなか人なつこいもので、傍へ行くに鼻をクス／＼言はし

ながら、肩や胸にこすりつけて來ます。これが馴れないうちは怖いのです。それにお馬はまても臆病な、氣の小さい、やさしい動物なのです。殊にお目を見つめられるに怖がります。この呼吸が始めのうちはわからないので。切角お馬の方では、仲好しになりませう、こすり寄つてくるのに、氣味わるがつて、コラツミおこつたり、顔を見つめたりして、却つて馬を怖がらせ、暴ばれさせるやうなことがあるのです。それに今一つお馬は自分の後の方を大變怖がるのです。お馬が蹴るのは、後の方へ何か來たなと思つて、怖がつて蹴るのです。それも、お馬のお尻のまゝころへピッタリくつくやうにして後へ廻れば、お馬は、は、これは今自分の横に居た人が、後の方へ廻つて、お尻の蠅でも追つてくれるんだなと思つて、安心してゐます。それを始めのうちは、こちらの方がおつかなびつくりなものですから、なるべくお馬からはなれるやうにして後に廻るまいふに、ボンミ蹴られて、怪我をするやうなことも度々あります。

それから馬に呼びかけるには、「ホーラ、ホーラ」といふ

のです。暴れてゐるのをなだめる時にも「ホーラ」言ひます。近寄つて行く時に、この言葉をかけてやるを、決して蹴つたりなごしません。昔は馬を馴ますのによく、「ハイヨー」言つたさうですが、今はそんなことは言はないところを見るを、あまり利き目がないのでせう。

さてこれでお馬の傍へ近寄つて行く心得がわかりました。これからいよく、おふみに足をかけて、お馬の背中に乗つかるとです。それも平気で乗つかつてゐるさいふさ、お馬はおさなくして乗せてゐてくれるのですが、少しお馬が動いたりするを、おつかながつて足をぢぢめたり、首根つこへしがみついたりするものですから、お馬の方からいふを、お腹にさわつたり、人間の身體の重みが前へかゝつたりするので、さてこそを、スタコラ走り出します。そこでまず、あはて、しがみつくものですから、すつてんころりさ落ちるやうな順序になるのです。

お馬は決して人を踏んづけません。お馬の前へ落ちて、器用にちやんさよけて行つてくれます。戦争の時など、敵の兵隊を踏んつけてくれる方がいゝのですが、おけ

いこの時は踏まれてはかなひません。なにしろおぢさんなんか新兵の時には、一日のおけいこで十五回も落ちたことがあるのですから。いちよく踏まれてゐた日には、今ころは皆さんにお馬のお話なんかしてゐられなかつたでせう。幸に命に別條はなかつたりしても、脚の一本ぐらゐは折れてゐたでせう。

かうしてあたりしく入營した新兵さんは、来る日も来る日も、落ちては乗り、落ちては乗り、根氣よくおけいこをつけます。それにお馬の背の上でトン／＼持ち上げられたり、横ぶりに振られたりするので、大抵のものはお猿さんのお尻のやうに、まつかにすりむけます。なか／＼らくではありません。

それでも三四ヶ月もするを、すつかり馬にも馴れて、ちよつとしたことでは落つこちなくなりませう。この頃になるさちやんさ鐵砲をしよひ、あの長い劍をつるして廣い、練兵場をドン／＼走り廻り、馬の上から軍刀で敵を斬るけいこや、障得を飛び越える練習や、斥候や傳令のやり方を習つたりします。もう一人前の騎兵の兵隊さんです。



こゝでちよつとお馬に乗る時の道具のこまをお話しまし  
う。先づ人が乗つかるのがお鞍です。お鞍を言つてもお伽  
嘶にあるやうな金や銀をちりばめた綺麗なものではありません  
ん。兵隊さんのお鞍は軍鞍を言つて頑丈一點ばりに出来て  
るのです。戦争に出たり、大きな演習に行く時には、鞍  
の兩側前後に旅囊、鞍囊をいつて袋をさりつけるやうにな  
つてゐます。その中には人ご馬ごの二日分の辨當、兵隊さ  
んのシャツ、ズボン下のやうな身の廻りのもの、豫備鐵を  
言つて馬の踏鐵——このこまは後でお話します——彈藥等  
を入れます。その他に鞍の後には天幕や兩具をぐるぐる巻  
いて取りつけるやうになつて居ります。かうしてすつかり  
仕度をこまのへますご、一人の兵隊さんでは馬の背中へ乗  
つけるこまが出来ない位の重さになります。十貫近くもあ  
りませうか。それに十五六貫ある人間が乗るのですから、  
お馬も大變なわけです。

お鞍の下には鞍下毛布を言つて、皆さんのお家にある二  
枚つゞきの大きな毛布、あれを八つに折つてお馬の背中に  
敷きます。これがないと固いお鞍で背中がすれて皮がむく

れて來ます。丁度皆さんが靴下をしないで靴を履くこ  
ま、こまに豆が出来たり、すりむけたりするのと同じ理窟で  
す。

お鞍は腹帯でお馬の腹をグット締めてさりつけます。皆  
さんがパンツをバンドで留めるのと同じです。ところが、  
お馬の中には腹を締めつけられるのを嫌がつて、腹帯びを  
締めようとするご、グリーンにお腹をふくらませるのがあ  
す。こんなのは注意して、乗つてから腹帯をも一度締め直  
さないご、歩いたり馳けたりしてゐる間に、鞍の下に敷い  
た毛布がズンズンすりこけて、知らぬ間に落つこちて失ふ  
ごまがあります。兵隊さんの大變な不名譽ごされてゐて、  
若しそんなごがあらうものなら、後でこつびごく吐られ  
ます。ですから若し皆さんが行軍して來た騎兵の兵隊さん  
のうちで、鞍下毛布がペロンご後の方へすり落ちてゐるの  
を知らないで、得意になつて行くやうなのを見たら、注意  
してあげてください。

腹帯に就いては、日露戦争の時にこんなお話がありま  
す。二人の斥候が前進してゐますご、さうやら前方の小高

い山の向ふに敵が居るやうな氣配がします。そこで二人はその山へ上つて、高い所から偵察しようとしたのですが、その山が餘り急で、道もないので、馬を乗り上げるこゝが出来ません。二人のうち一人は手綱を戰友にあづけて自分が馬を下り、徒歩でその山によち登るこゝにしました。こ

ころが山のすそへ漸く手をかけたかかけないかに、横手の方からバン／＼／＼ミ猛烈な敵の射撃を受けたのです。そこで直ちに馬に飛び乗らうとして、片足を鐙あぶみにかけてぐつ／＼踏み切つた途端に、腹帯が弛んでゐてお鞍がクルリ／＼引つくり返つた爲め、その斥候は馬に乗るこゝが出来ず、さう／＼非業の最後を遂げたといふこゝです。又、佐々木高綱と梶原景季の宇治川先陣争の話は皆さん御存知ですね。梶原は、馬の腹帯が弛んでゐるよ／＼注意された爲め、氣をこられて、まんま高綱に先陣を越されました。それほどに、この腹帯といふのはお馬に乗る人にとつて大切な、よく注意して居ねばならないものになつてゐるのです。

さて次に、お鞍の兩側からブラリンミ下がつてゐるのは、いふまでもなく鐙です。馬に乗る時には、先づ左の手

で馬のたて髪をつかまへ、左足を鐙にかけて、やつ／＼ばかりに跨ります。それから右鐙に足を入れます。始めの頃は、右足先き右鐙をよく見乍らでないミ、なか／＼足がかりませんが、少し慣れて来るミ、見ないでも足さぐりうまくかゝるやうになるものです。

お馬の口の兩側から出てゐる二本の革紐が手綱です。手綱は自轉車で言へば、ハンドルミブレーキの役をします。

これを引くミお馬は止まります。右手綱は右に向かせる時、左手綱は左に向かせる時に使ひます。それでは止まつてゐる時に歩かせたり、又ゆつくり歩いてゐる時に駆け出させたりするにはさうするかいふミ、脚をグツミ締めるのです。騎兵の乗つてゐるやうな恂巧なお馬になると、膝のこゝろを一寸締めつけたゞけで、素直に歩き出しますが、それだけできかない時や、いきなり速く駆け出させたりする時に、靴のかゞミについてゐる拍車でお腹をつゝいたり、蹴つたりするのです。おちさんがまだホヤ／＼の新兵さんで、おつかなびつくりでお馬に乗つてゐた頃、或時何に驚いたのかいきなりバツミ駆け出されたこゝがありま

す。おぢさんはびつくりして手綱をグン／＼引張ります  
が、止まらばこそ、まるで氣狂のやうになつて駆けて行き  
ます。おぢさんは青くなつて、鞍にしがみついてゐました。  
する／＼後から、教官が馬で追驅けて来て、「馬鹿、拍車が入  
つてるぢやないか」注意してくれました。振り落さされま  
いと思つて夢中でしがみついてゐたので、知らぬ間に、な  
んのこまはない、拍車でお馬のお腹をギリ／＼押しつけて  
ゐたのです。恥さらしはこの位にして、次に進ませう。

### 三、お馬の手入れ

兵隊さんはかうしてお馬の世話になりますから、乗らな  
い時には大事にいたわつて、細かい心づかひをしてやりま  
す。始めはおつかなかつたり、又度々振り落さされていま  
ましいと思つた馬も、毎日のやうに一緒に教練や行軍を  
して、苦しみも、楽しみも別ち合つてゐます。全くお友達  
のやうに親しくなるものです。それに元來お馬は大變人な  
つこい、おぢなしい動物なのです。始の間はお互に氣心も  
知れないので、まづいこもあつたのですが、仲好しになつ  
て見る／＼こんな可愛いものはありません。兵隊さんは

よく馬の手入をし乍ら、ちよつと皆さんがお人形やおもち  
やま遊ぶ時のやうに、お馬に夢中で話しかけてゐます。そこ  
でござは、ごんな手入れをしてやるのか、お話しませう。

行軍や練兵から歸る／＼、何をおいても先づ水を飲まして  
やります。お馬は一日に四度も五度も水を飲みます。夏の  
暑い時なご人間も喉がかわきますが、ごんな時でもお馬の  
方がさきです。それから重い鞍を下ろしてやります。そし  
て、何さいつても一番お馬がくたびれるのは足ですから、  
柔らかにした藁で四本の足をかかはるがはるマッサージをや  
つてやるのです。お馬は目を細くして喜びます。これをや  
らないで乗りつばなしにして置く／＼、かゝの所が段々に  
はれて来て、終りにははしつこかつたお馬ものろまになり、  
高い障碍でもドン／＼元氣よく飛び越えてゐたものが飛べ  
なくなるのです。足の次にはお鞍の乗つかつてゐた背中を  
トン／＼と兩手で叩いてあんなまをしてやります。こゝの  
所も、長く鞍を置いて重い人間が乗つかつてゐたのですか  
ら、はれたり、お熱をもつてゐたりします。その次に、からだ體  
の汗や泥を、やはり柔かい藁やタオルで掃きこつて、きれ

いにしてやります。夏の暑い時など、お馬の體から流れる汗が、かはいで、眞白い鹽がかたまつてゐるやうなこまは珍しくありません。ですからタオルを何度も絞つて、時にはシヤボンをつけてきれいにしてやります。お馬の中には、皆さんも知つてゐるやうに、鼻づらや、脚に、白いぶちのある可愛いのがありますが、そのこまころが汗まほこりで汚くなつてゐたりするに、兵隊さんは自分のからだのやうに、やつきになつて洗つてやつてゐます。

その次は爪の手入れです。お手入れの前に、爪の話をしませう。お馬の足には指がありません。あると言へばたつた一本です。バットの先きへお梳を逆さにくつつけたやうなのが、お馬の足です。このお梳のこまころがお馬の爪です。

爪はやほらかいものですから、夏つばの柔かい草の上なら構はないのですが街や固い道を重いものを載つけて歩くに、すり減つて來ます。ですから皆さんの見るお馬には、爪の先きに蹄の形をした鐵が打ちつけてあるのです。朝鮮や滿洲の氷の張つた所に行くに、この鐵に何本も釘のやうなものが出てゐます。丁度野球やランニングの時に履くス

バイクのやうなものです。何のためか、わかりますね。氷の上をすべつて轉ばないやうにです。それはこまかくさして、この蹄鐵が、行軍なきをしてゐる途中で落ちるこまがあるのです。それは、いくら釘でしつかり打ちつけたから云つて、もままくつつけたものですから、落ちるのは何まも仕方がありません。そんな時の用意に、お鞍にくつつけた袋の中へ、別の鐵をもつて行くのです。

それではお馬に乗つてゐて、蹄鐵が落ちたのがさうしてわかるかま、皆さんは不思議に思ふでせう。そこで兵隊さんは、行軍なんかする時は、後の人が始終前の人のお馬の足を注意して、鐵がくつついてゐるかまか、お互に氣をつけてこするのです。今度、お馬に乗つた兵隊さんの列がバカくくくく走つて來て、皆さんの前で、ゆつくり普通の歩調になつたやうな時に、氣をつけてゐてごらんさい。兵隊さんは、お互に前の馬の脚の方をすかして見乍ら「前馬異常なし」こいふやうなこまを言つてゐますから。こまころで晝間なら「前馬異常なし」かまかまわかりますが、夜の眞暗い時などは、見えないではないかま言ふ人が

おありでせうが、そんな時には、馬でもやつぱりびつこをひきますから、ゆれ具合によく注意してゐて、お馬の歩きつぷりで知るより他はないのです。それをほんやりして乗つてゐますよ、蹄鐵が落ちたのも氣づかないで何時間も歩いた爲め、朝になつて見るよ、爪がすつかりよすり減つてゐたりすることがあります。そんな時は、またこの爪が延びるまでそのお馬は乗れないよになるのです。さうです、皆さん。のんきさうに、お馬の上でバカッ／＼歩いて行く騎兵の兵隊さんは、いゝなアミ思ふでせうが、それでゐてなか／＼心配なものだよいふよこが、おわかりでせう。

それにお馬の爪はカラ／＼に乾いてくるよポロ／＼かけて落ちるやうになるのです。そこで、爪の手入れですが、お馬の傍へしやがんで脚をかゝへるやうにして、「ホーラ」ミ聲をかけてやるよ、ちゃんミ膝を折つて一本づゝ兵隊さんのお手々へおあづけをします。そこででいねいに水で泥を洗ひおきてやつた上で、爪が乾かないやうに、油を塗つてやります。

そのうちに濡れたタオルで拭いた毛が乾きますから、毛

並にそつてブラシミ櫛を入れてやりますよ、見る見るうちに毛並につやが出て來て、さきほごまで汗ミ砂ほこりミ泥ミであんなに汚なかつたお馬が、見ちがへるやうにつやつやよ、そしていき／＼して居ります。

それから、乾いた柔かい藁の寢床の敷いてある自分のお部屋へ入れてもらつて、ペコ／＼にすいたお腹へ、お美味いごちさうを頂きます。お馬のよはんは、燕麥・大麥・小麥・トウモロコシ・高粱・藁・干草等で、お金にして一日およそ一圓見當です。この外に大好物として人參がありますが、これは皆さんで言へば先づチヨコレートミ言つたよころでせう。大變骨折つたり、むづかしい障得をうまく飛び越えたりした時に、御褒美に貰ひます。

その他、兵隊さんは朝起きて點呼を濟ますよ、何をおいても厩へかけつけて愛馬の世話をします。「ホーラ」ミ言つて寄つて行くよ、お馬の方も一晩別れてゐた主人の方へ、嬉しさうに顔をすりつけて參ります。そこで外へ曳き出して水をやり、練兵の後ミ同じやうな手入をしてやります。

(以下六十九頁へ)

# 日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三  
 附屬幼稚園主事

## 日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
  - 一、幼児教育ニ關スル研究及ヒ調査
  - 一、幼児教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
  - 一、雜誌發行(毎月一回)
  - 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
  - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
  - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 會長 一名 會務ヲ總理ス
  - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ジ
  - 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
  - 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
  - 第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
  - 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

### 價定

拾	冊	送	料	共	拾	圓	貳	錢
六	冊	送	料	共	五	圓	貳	錢
半	冊	送	料	共	四	圓	貳	錢
一	冊	送	料	共	三	圓	貳	錢

特等面一頁二等面一頁  
 一等面一頁一頁以下  
 金拾五圓御斷  
 神田區駿河臺ノ三田  
 廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
 昭和十二年七月十五日印刷納本  
 昭和十二年七月十五日發行

### 幼兒の教育 第三十七卷 第七號

### 不許複製 禁止轉載

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內  
 編輯者 倉橋 惣三  
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷者 柴山 則常  
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷所 會社 杏林 舍

### 發行所 日本幼稚園協會 振替口座東京一七二六六番

### 注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

# 再版

## 日本幼稚園協會編 幼稚園談話集

菊版三五〇頁  
定價金壹圓五拾錢

郵稅  
市內 金六錢  
地方・北海道 金拾五錢  
臺灣・朝鮮・滿洲

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編「系統的保育案」は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まごめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと思ひます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸です。

# 四版

## 東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 系統的保育案の實際

定價金壹圓  
送料金六錢

一保育案の實際は幼稚園必須の資料  
一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考  
一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

# 月刊

## 幼兒の教育

幼兒教育に關する忠實なる月刊雜誌として、眞に全國幼稚園、託兒所の方々のものたらんことを切望してゐます。

一ヶ月 金參拾五錢  
送料金一錢  
一ケ年 金四圓貳拾錢  
送料共

發行所 日本幼稚園協會

○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。

東京市小石川區大塚町卅五番地  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
振替東京一七二六六番

# 夏休み前から

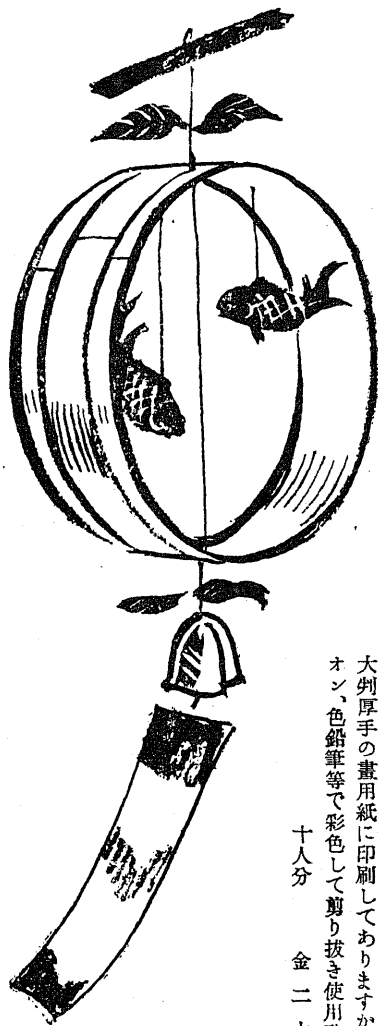
## お休みへかけて

涼しい、おみやげ品の手技材料と  
お子様方の歡ぶ保育品のいろいろ

### 新發賣 「金魚と風鈴」

◇團扇——淡い紅・黄・紫・綠・水色の五種何れも貼紙  
クレオン等で意匠して用ひます。

各色取合五十本 一組 金一圓八十錢



◇木舟——木製のお舟、エナメルで仕上げて水に浮かせま  
す。 一艘 金十二錢

◇紙舟——茶ホールに印刷した厚紙細工、剪つて開き紙で  
止め、クレオン、色テープ等で意匠して水に浮かせる。

五十個 金一圓二十錢

◇後藤連繫紙時計——幼兒の裝飾用品として模倣遊戯に好  
適。 四十人分一箱 金三十錢

◇七夕祭用品——五色の短冊五枚、提灯用紙二枚、銀の星  
五枚を一組としたもの。 五十組 金一圓八十錢

◇盆提灯用織紙——形は種々作れますが、昔懐しい切り燈  
籠、色は赤と水色の絞の二種。

五十組(中紙共) 金一圓

◇金魚と風鈴——後藤牧星先生の新考案、やさしく而も出  
來效果一〇〇%。夏の景物として子供の傳しい被け物。

大判厚手の畫用紙に印刷してありますから、クレ  
オン、色鉛筆等で彩色して剪り抜き使用致します。

十八分 金二十錢

發 行 所 立 用 具 發 賣 元

# 株 式 會 社 三 木 社

出 張 所

本 店

大阪東區備後五町・電話本町(4)一八九三番

東京神田保二町・電話九段(3)三六二番